

C5000 シリーズ

WebControl

取扱説明書

Ver. 1.1.3



株式会社コスミックエンジニアリング

目次

1. 概 要	1
2. システム要件	2
2.1. 対応ブラウザ	2
2.2. ネットワーク環境	2
3. 起 動	3
3.1. 閲覧モードと設定モード	6
4. WEBCONTROL 各種設定	7
4.1. ネットワーク設定	8
4.2. DNS 設定	10
4.3. NTP 設定	11
4.4. メール設定	14
4.4.1. メール認証	15
4.4.2. メール送信例	16
4.5. 再起動設定	18
5. メニュー詳細	19
5.1. ホーム	19
5.2. モジュール一覧	20
5.2.1. 別名設定例	22
5.2.2. 複数列表示	23
5.3. ウォッチリスト	24
5.3.1. ウォッチ項目の登録	25
5.3.2. ウォッチリスト表示	27
5.4. イベントログ	29
5.4.1. イベント数表示とページ操作	30
5.4.2. 表示行数の設定	31
5.4.3. フィルタリング設定	32
5.4.4. フィルタリング設定 項目	34
5.4.5. フィルタリング設定 画面表示	36
5.4.6. フィルタリング表示解除	37
5.4.7. イベントログの保存	38
5.4.8. イベントログのクリア	39
5.5. システム設定	40

5.5.1. 全般タブ	40
5.5.2. アラート設定タブ	43
5.5.3. アラート音登録タブ	45
5.5.4. その他タブ	53
5.6. アップデート	57
6. モジュールの設定確認・変更例 ～DFS5001～	61
6.1. 設定変更	61
6.2. マイクロ SD カードへ保存（CFG ファイルの保存）	61
6.3. DFS5001 設定項目一覧	62
6.4. 「モジュールパラメータ変更」ポップアップ表示設定	64
7. お問い合わせ	64

図番号一覧

図 3-1 WebControl 起動方法	3
図 3-2 ホーム画面	3
図 3-3 モジュール一覧	4
図 3-4 TLC5001 装着例	5
図 4-1 ネットワーク設定一覧	8
図 4-2 DNS 設定例	10
図 4-3 NTP 設定例	11
図 4-4 メール設定例	14
図 4-5 メール送信例	16
図 4-6 再起動手順 1	18
図 4-7 再起動手順 2	18
図 5-1 メニューアイコンクリック画面	19
図 5-2 ホーム画面	19
図 5-3 モジュール一覧選択	20
図 5-4 モジュール一覧（閲覧モード）	21
図 5-5 モジュール一覧（設定モード）	21
図 5-6 モジュール別名の設定	22
図 5-7 モジュール別名の確認	22
図 5-8 1 列表示	23
図 5-9 複数列表示	23

図 5-10 ウォッチリスト選択	24
図 5-11 ウォッチリスト登録例 (DSG5002).....	25
図 5-12 ウォッチリスト登録例 (DFS5001)	26
図 5-13 ウォッチリスト表示	27
図 5-14 表示カラム数 選択画面.....	28
図 5-15 ウォッチリスト表示 カラム数 2 の表示例	28
図 5-16 イベントログ 選択.....	29
図 5-17 イベントログ例.....	29
図 5-18 イベントログ 表示行数設定	31
図 5-19 イベントログ フィルタリング設定 1	32
図 5-20 イベントログ フィルタリング設定 2	33
図 5-21 イベントログ フィルタリング設定 3	33
図 5-22 モジュール指定 スロット番号指定画面	35
図 5-23 モジュール指定 モジュール名指定画面	35
図 5-24 フィルタリングログ 表示/非表示ボタン.....	36
図 5-25 フィルタリング表示解除 アイコン.....	37
図 5-26 イベントログの保存 アイコン.....	38
図 5-27 イベントログのクリア アイコン	39
図 5-28 イベントログのクリア 確認	39
図 5-29 システム設定 選択.....	40
図 5-30 システム設定 全般.....	40
図 5-31 システム設定変更 確認.....	41
図 5-32 初期化 確認画面.....	42
図 5-33 フレーム内部エラー 非表示	44
図 5-34 アラート音登録タブ	45
図 5-35 音声ファイルの登録 1	46
図 5-36 音声ファイルの登録 2	46
図 5-37 音声ファイルの登録 3	47
図 5-38 音声ファイルの一括登録 1.....	48
図 5-39 音声ファイルの一括登録 2.....	48
図 5-40 音声ファイルの一括登録 3.....	49
図 5-41 音声ファイルの一括登録 4.....	49
図 5-42 音声ファイルの削除 1	51
図 5-43 音声ファイルの削除確認.....	51

図 5-44 音声ファイルの全削除 1	52
図 5-45 音声ファイルの全削除 確認	52
図 5-46 システム設定の保存	53
図 5-47 設定の復元 1	54
図 5-48 設定の復元 2.....	54
図 5-49 設定の復元 3.....	55
図 5-50 設定の復元 4.....	56
図 5-51 アップデート 選択.....	57
図 5-52 アップデート モジュール選択.....	57
図 5-53 アップデート デバイス選択	58
図 5-54 アップデート ファイル選択	58
図 5-55 アップデート ボタン	59
図 5-56 アップデート 進行画面.....	59
図 5-57 アップデート 完了画面.....	60
図 6-1 CFG 選択	61
図 6-2 DFS 設定項目一覧.....	63
図 6-3 モジュールパラメータの非表示	64

1. 概 要

WebControl は、C5002/C5001 フレームに実装されたモジュールの構成や設定の確認、変更、操作を Web ブラウザーで行うことができます。また、SNMP の TRAP 制御や TRAP の通知をブラウザーのポップアップウインドウ・アラーム音やメール発報で行うこともできます。

《特 長》

1. C5000 シリーズフレームの設定確認・変更や操作が Web ブラウザーで可能
2. フレームに実装されたモジュールの設定確認・変更や操作が Web ブラウザーで可能
3. 各モジュールの SNMP TRAP の通知／非通知を項目ごとに設定可能(※1)
4. SNMP TRAP の通知項目に関して、E-Mail 送信可能
5. TRAP 通知ごとにブラウザーのポップアップウインドウ表示／非表示やアラーム音(※2)ON/OFF の設定が可能
6. TRAP 通知ごとにメール発報／非発報の設定が可能
7. TRAP をログに記録し閲覧およびダウンロードが可能
8. モジュールの設定データを PC に保存および復元が可能

※1 TRAP ごと個別に通知／非通知の設定ができないモジュールもあります。

※2 アラーム音は音声ファイルを再生します。音声ファイルは PC に保存します。

Windows/Chrome の環境では、以下の音声ファイルに対応しています。

「.wav」,「.mp3」,「.ogg (Vorbis) 」,「.m4a (MPEG4 AAC) 」

2. システム要件

2.1. 対応ブラウザ

Google 社製「Google Chrome」に対応しております。その他のブラウザには対応していません。

2.2. ネットワーク環境

同一ネットワーク上に C5000 フレームとブラウザ（Google Chrome）が動作する PC を接続します。

あるいは、別なネットワーク同士を、ルーターを介して接続し C5000 フレームと PC を接続します。

WebControl は、ブラウザと C5000 フレーム間を HTTP で通信します。

メール発報機能をご使用の場合は、SMTP サーバーとの接続や、時刻同期機能をご使用の場合は、NTP サーバーへの接続が必要です。

Web サーバー	HTTP 1.0/1.1 ポート番号: 80 固定
メール発報(SMTP)	SMTP に対応するサーバー SMTP 認証 (AUTH CRAM-MD5、AUTH LOGIN、AUTH PLAIN) ポート番号: 25 変更可能
時刻同期(NTP)	NTP に対応するサーバー ポート番号: 123 固定

※上記は推奨環境です。動作を保証するものではありません。

ご使用になる機材等により接続できない場合もございます。あらかじめご了承ください。

3. 起 動

Google Chrome で IP アドレスを入力して、WebControl に接続します。
C5002-20 フレームの IP アドレス出荷時設定は、「192.168.0.10」です。

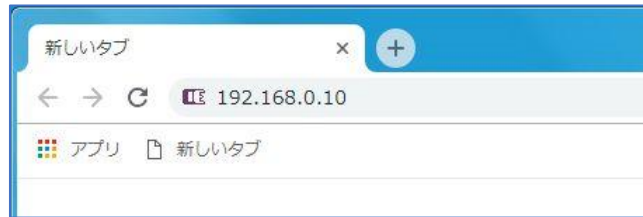


図 3-1 WebControl 起動方法

WebControl に接続後、「C5000 Web 監視ページ」をクリックします。

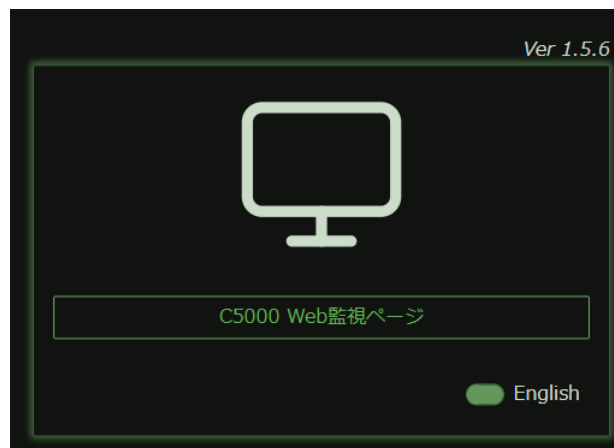


図 3-2 ホーム画面

モジュール一覧画面を表示します。

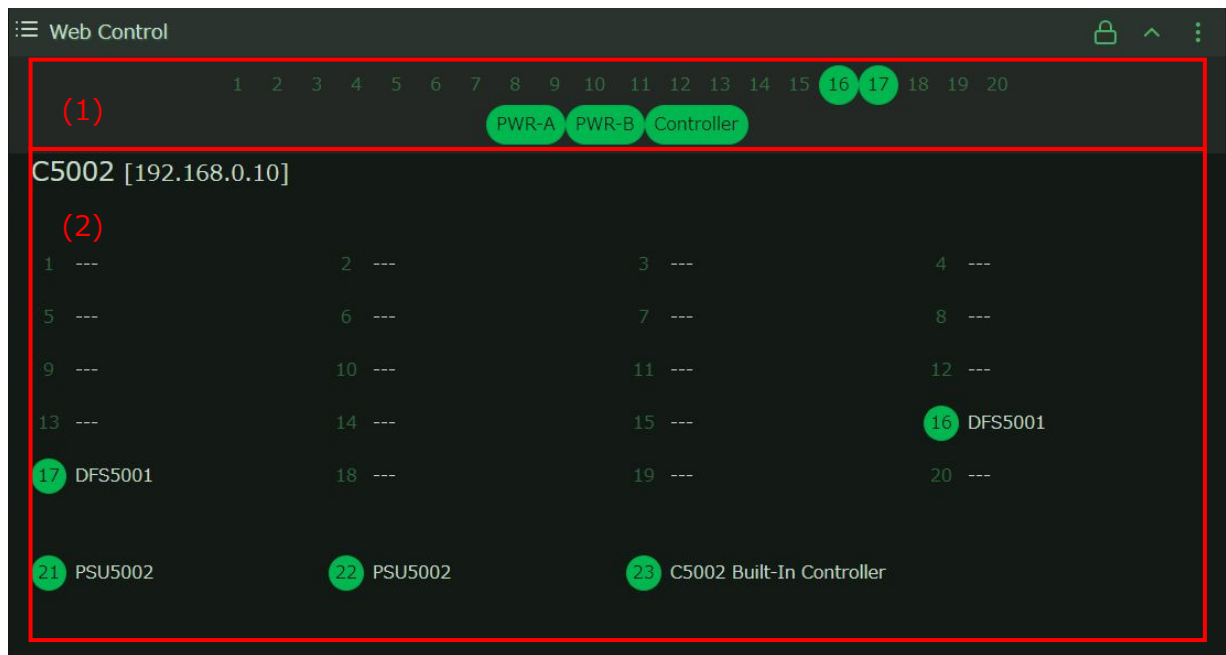


図 3-3 モジュール一覧

(1)

C5000 フレームのスロット番号で、モジュールが挿入されているスロット番号を緑で表示します。

緑表示にマウスカーソルを重ねると、モジュール型名および別名を表示します。

アラームやエラーを検出しているモジュールは赤で表示します。

WebControl 起動中に抜けたモジュールは黄色で表示します。

(2)

C5000 フレームに挿入されているモジュール一覧です。

緑表示をクリックすると、各モジュールのパラメータ画面に遷移します。

ネットワーク設定を行うためには、(1)Controller、あるいは(2)の C5002 Built-In Controller をクリックします。

TLC5001 利用の場合は、TLC5001 と表示されているモジュールを選択してください。

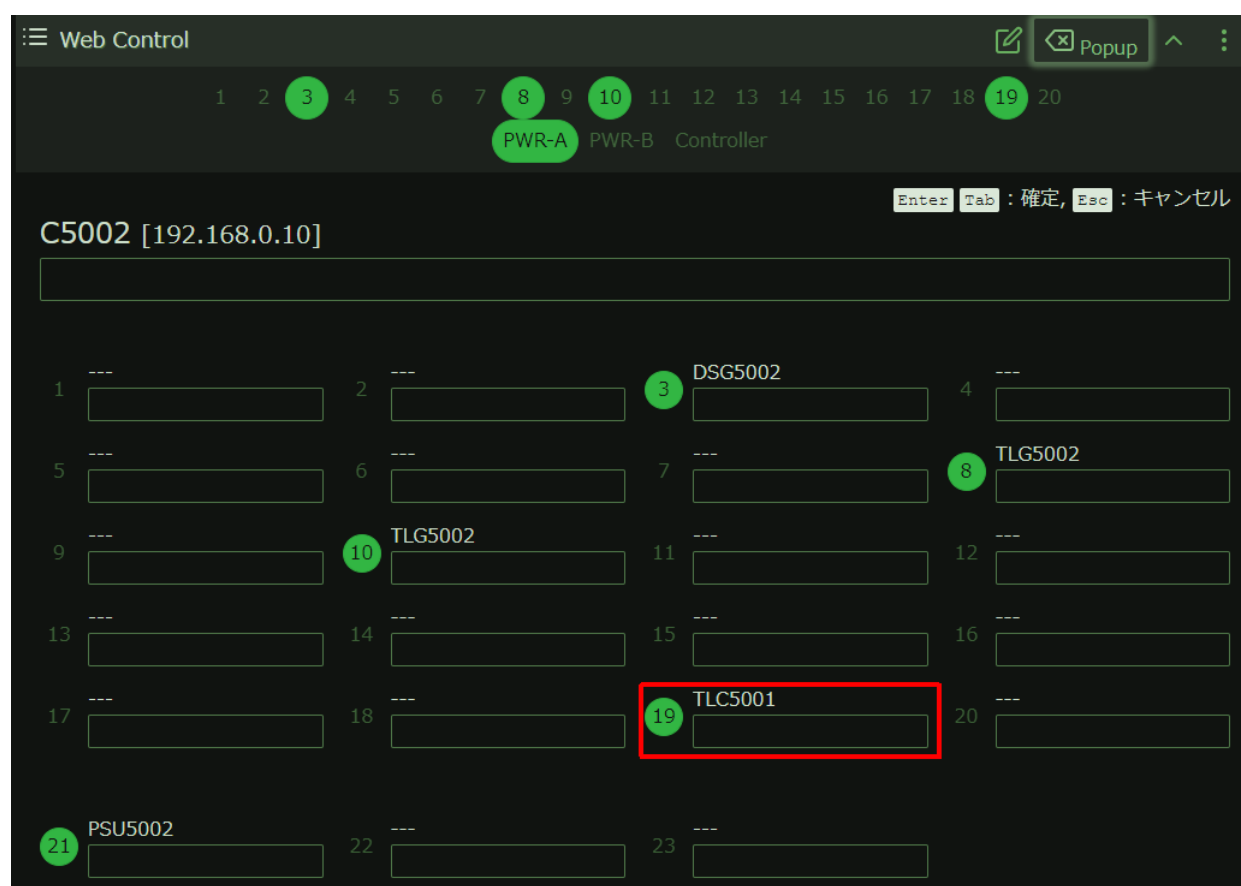


図 3-4 TLC5001 装着例

3.1. 閲覧モードと設定モード

WebControl には、各モジュールの設定値を確認する「閲覧モード」と設定値を変更できる「設定モード」があります。起動時は閲覧モードです。閲覧モード、設定モードの変更はそれぞれの鍵アイコンをクリックします。



閲覧モード時のツールバーの鍵アイコン



設定モード時のツールバーの鍵アイコン
設定値を変更することが可能です。

※バージョン 1.4.0 より前の WebControl では設定モードへの変更にパスワードが必要です。

工場出荷時のパスワードは、「c5000-web-admin」です。



4. WebControl 各種設定

WebControl を使用するために、ネットワーク設定が必要になります。

デフォルト設定は以下のものになっているため、ユーザー環境に合わせて設定をお願いします。

設定を変更する場合、「設定モード」にしてから変更してください。

IP アドレス	192.168.0.10
サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	192.168.0.100
SNMP トラップ送信先	192.168.0.200

※IP アドレス、DNS、NTP サーバーの設定を変更した場合、再起動が必要になります。

※再起動は電源の切断・投入か、再起動設定で行います。

4.1. ネットワーク設定

設定モードの場合、現在の設定が白地に黒文字、再起動後の設定が黒地に白文字で表示されています。
変更完了後、4.5 再起動設定で内蔵コントローラ/TLC5001 を再起動してください。

ネットワーク設定 [-]

19項目

☐ 現在のMACアドレス	00:0d:c7:
☐ 現在のIPアドレス	192.168.0.10
☐ 現在のサブネットマスク	255.255.255.0
☐ 現在のゲートウェイアドレス	192.168.0.100
☐ 現在の専用アプリ通信用ポート	12345
☐ 現在のコミュニティ名 (SNMP)	public
☐ 現在のMIB-2 SysName (SNMP)	C5002
☐ 現在のMIB-2 SysContact (SNMP)	http://www.cosmic-eng.co.jp
☐ 現在のMIB-2 SysLocation (SNMP)	3-2-11, Asahi-ga-Oka, Hino, Tokyo 191-0065, JAPAN
☐ 現在のTrap送信先アドレス (SNMP)	192.168.0.200
☐ 再起動後のIPアドレス	192.168.0.10
☐ 再起動後のサブネットマスク	255.255.255.0
☐ 再起動後のゲートウェイアドレス	192.168.0.100
☐ 再起動後の専用アプリ通信用ポート	12345
☐ 再起動後のコミュニティ名 (SNMP)	public
☐ 再起動後のMIB-2 SysName (SNMP)	C5002
☐ 再起動後のMIB-2 SysContact (SNMP)	http://www.cosmic-eng.co.jp
☐ 再起動後のMIB-2 SysLocation (SNMP)	3-2-11, Asahi-ga-Oka, Hino, Tokyo 191-0065,
☐ 再起動後のTrap送信先アドレス (SNMP)	192.168.0.200

図 4-1 ネットワーク設定一覧

機能	初期値	説明
IP アドレス	192.168.0.10	IP アドレス(IPv4)を設定します。
サブネットマスク	255.255.255.0	ネットマスクを設定します。
ゲートウェイアドレス	192.168.0.100	ゲートウェイアドレスを設定します。
専用アプリ通信用ポート	12345	TLG5002 など専用アプリが使用するポート番号を設定します。
コミュニティ名(SNMP)	public	コミュニティ名を設定します。
MIB-2 SysName (SNMP)	C5002	機器名称を設定します。
MIB-2 SysContact (SNMP)	http://cosmic-eng.co.jp	SNMP 管理者の連絡先を設定します。
MIB-2 SysLocation (SNMP)	3-2-11, Asahi-ga-Oka, Hino, Tokyo 191-0065, JAPAN	機器の設置場所を設定します。
Trap 送信先アドレス (SNMP)	192.168.0.200	Trap 送信先アドレス(IPv4)を設定します。

4.2. DNS 設定

DNS(Domain Name Server)は、NTP サーバー、メールサーバーをホスト名から IP アドレスに変換します。
会社内ネットワークの場合、ネットワーク管理者に設定を問い合わせてください。
NTP サーバー、メールサーバーを IP アドレスで記述する場合、設定しなくても動作します。

DNS を変更した場合、再起動が必要になります。

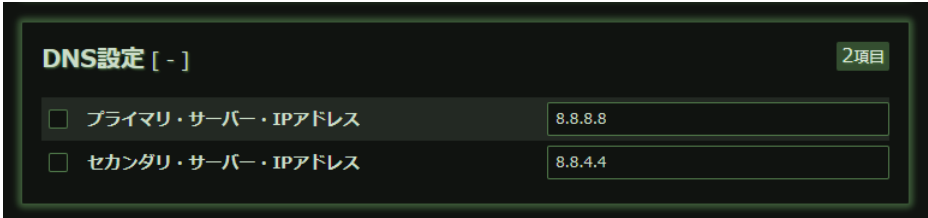


図 4-2 DNS 設定例

機能	初期値	説明
プライマリ・サーバー・アドレス	0.0.0.0	1 つ目の DNS サーバーの IP アドレスを設定します。 図 4-2 では google パブリック DNS の値を設定した例を示しています。
セカンダリ・サーバー・アドレス	0.0.0.0	2 つ目の DNS サーバーの IP アドレスを設定します。 図 4-2 では google パブリック DNS の値を設定した例を示しています。

4.3. NTP 設定

NTP(Network Time Protocol)は、ネットワーク経由で日付、時刻情報を取得するプロトコルです。

モジュールのログや、メール送信時に時刻を表示するために必要となります。

※NTP 機能は TLC5001 の場合、外部時計の使用を前提としているため項目表示されません。

NTP設定 [-]		9項目
☐ NTP機能	無効	
☐ NTPサーバー名/アドレス	ntp.nict.jp	
☐ NTP受信タイムアウト(秒)	20	
☐ NTPリトライ回数 (トラップしきい値)	10	
☐ NTPアクセス間隔(秒)	3600	
☐ NTP稼働状況	停止中	
☐ NTPエラー	エラーなし	
☐ NTP Trap設定	無効	
☐ NTP最新受信時刻		

図 4-3 NTP 設定例

機能	初期値	説明
NTP 機能	無効	ネットワーク経由で時間取得機能を有効にするか無効にするかを設定します。 パラメータを設定する場合は「 NTP 機能 」を「無効」にしてから設定、設定完了後、「有効」にするようにしてください。 ※稼働中にエラーが発生すると、「無効」表示になることがありますが、再起動した場合、ユーザーが設定した値が復元されます。
NTP サーバー名/アドレス	0.0.0.0	NTP サーバーのホスト名か IP アドレス(IPv4)を設定します。 ホスト名は 最大 64 文字 まで対応します。 代表的なパブリック NTP サーバーとして以下のものが利用できます。 ntp.nict.jp ntp.ring.gr.jp time.google.com
NTP 受信タイムアウト(秒)	20	NTP サーバーからデータ受信を待つ秒数を設定します。 1～120 秒の範囲で設定が可能です。
NTP リトライ回数	10	NTP サーバーから応答が無い場合、何回リトライするかを設定します。 NTP 受信タイムアウト秒×NTP リトライ回数の時間内に応答がない場合、エラーと判定し、NTP 機能を停止します。同時に、NTP Trap 設定が有効な場合、Trap 情報を送信します。 1～1024 回の範囲で設定が可能です。
NTP アクセス間隔(秒)	3600	NTP サーバーにアクセスする間隔秒を設定します。 1 時間の場合 3600 秒、24 時間の場合 86400 秒です。 1～86400 秒の範囲で設定が可能です。
NTP 稼働状況		NTP の稼働状況を表示します。 「稼働中」か「停止中」が表示されます。
NTP エラー		NTP のエラー内容を表示します。 エラー内容は下記 NTP エラーに詳細な説明があります。
NTP トラップ設定	無効	NTP エラーが発生した場合、トラップ情報を SNMP/メールに送信するかを設定します。
NTP 最新受信時刻		NTP データが受信できた場合、受信最新の日付・時刻情報を表示します。

NTP エラー

NTP でエラーが発生した場合、以下のメッセージが「**NTP エラー**」に表示されます。

エラー内容	説明
エラーなし	NTP 機能が正常に動作しているとき、あるいは NTP 機能が無効なとき表示されます。 取得できた最新の日付・時刻情報が「 NTP 最新受信時刻 」に表示されます。
DNS アドレス解決失敗	① 原因) 「DNS 設定」がされていないため、名前から IP アドレスが取得できないときに表示されます。 対策) 正しい DNS アドレス(「プライマリ・サーバー・アドレス」、「セカンダリ・サーバー・アドレス」)をネットワーク管理者に問い合わせてください。 社外 NTP サーバーを参照する場合、google パブリック DNS サーバー「8.8.8.8」を使用することで接続できる可能性があります。 ② 原因) 「NTP サーバー名/アドレス」のホスト名を間違えているため、IP アドレスが取得できないときに表示されます。 対策) 正しい「NTP サーバー名/アドレス」をネットワーク管理者に問い合わせてください。
リトライ多数発生	原因) NTP サーバーから「NTP 受信タイムアウト(秒)」で設定された時間内に応答が無いことが連続して「NTP リトライ回数」発生したときに表示されます。 図 4-3 の設定の場合 20 秒以内の応答が 10 回連続して無かった場合に表示されます。 対策) まず、「NTP 受信タイムアウト(秒)」を現在の設定値より 2 倍程度の値にして設定できるようになるまで試してください。「NTP リトライ回数」はたまにエラーになる場合に、値を大きくしてみてください。
無効な応答(パケット長)	原因) NTP サーバーからのパケット長(データサイズ)が想定している 48Byte では無かったときに表示されます。 対策) 常に発生する場合は、NTP サーバーを変更してみてください。 変更しても発生する場合、LAN ケーブルを交換してみてください。
RTC 時間情報設定失敗	原因) C5000 シリーズの内蔵時計に日付・時刻が設定できなかったときに表示されます。 対策) 電源を一旦切り、再度電源を投入してください。それでも発生する場合弊社まで連絡をお願いします。

4.4. メール設定

メール機能が有効な場合、SNMP 送信が設定されているトラップ情報に関してメールでも送信することが出来ます。

メール設定 [-] 17項目

- ☐ メール機能: 無効
- ☐ メールサーバー名/アドレス: 192.168.0.200
- ☐ SMTPポート: 25
- ☐ メール送信間隔: 5
- ☐ アカウント名: admin
- ☐ パスワード: c5000-admin
- ☐ 宛先アドレス 1: c5000-master@ce-domain
- ☐ 宛先アドレス 2:
- ☐ 宛先アドレス 3:
- ☐ 宛先アドレス 4:
- ☐ 宛先アドレス 5:
- ☐ 送信者アドレス: c5000@ce-domain
- ☐ 返信先アドレス: c5000@ce-domain
- ☐ 件名: Trap Mail from C5002-20
- ☐ 本文: Trap Mail Body
- ☐ メール初期値設定: いいえ
- ☐ Trap設定: 無効

図 4-4 メール設定例

機能	初期値	説明
メール機能	無効	メール機能を有効にするか無効にするかを設定します。 パラメータを設定する場合は「メール機能」を「無効」にしてから設定、設定完了後、「有効」にするようにしてください。
メールサーバー名/アドレス		メールサーバーのホスト名か IP アドレス(IPv4)を設定してください。ホスト名は最大 64 文字まで対応します。
SMTP ポート	25	メール送信に使うポートを設定します。 1～65534の範囲で設定が可能です。25で動作しない場合、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
メール送信間隔	5	メール送信の間隔を設定します。 送信間隔内で発生したトラップ情報は 1 通のメールで送信されます。 C5000 内部では 128 個トラップを保存できます。メール送信前に 128 個以上のトラップが発生した場合、後から発生したトラップはメール送信されません。
パスワード		メールサーバーのパスワードを設定します。 1～32 文字の範囲で設定が可能です。
宛先アドレス 1～5		メールの宛先アドレスを設定します。 最大 5 人まで設定でき、0～64 文字の範囲で設定が可能です。 0 文字の場合、宛先は無視されます。

機能	初期値	説明
送信者アドレス		メール送信者のアドレスを設定します。 0～64 文字の範囲で設定が可能です。 プロバイダによっては送信者アドレスが設定されていないとメールを受け付けない場合がありますので、設定するようにしてください。
返信先アドレス		メール返信先アドレスを設定します。 0～64 文字の範囲で設定が可能です。 特に指定が無い場合、送信者アドレスと同じアドレスに設定してください。
件名		メールのサブジェクトを設定します。 半角英数字 0～64 文字、日本語 0～16 文字の範囲で設定することができます。
本文		メール本文の先頭につける定型文を設定します。 半角英数字 0～128 文字、日本語 0～32 文字の範囲で設定することができます。
メール初期化設定	いいえ	メール設定を初期化します。
Trap 設定	無効	メール送信でエラーが発生した場合のトラップを設定します。 「無効」または「有効」を設定できます。 ※メール送信でエラーが発生した場合、トラップデータをメールで送信できないため、WEB 制御画面、あるいは SNMP 経由でのトラップ表示となります。

4.4.1. メール認証

C5000 シリーズのメール送信は以下の認証に対応しており、セキュリティレベルが高い順に認証を試みます。

1. CRAM-MD5 (最もセキュリティレベルが高い)
2. LOGIN
3. PLAIN

4.4.2. メール送信例

メール送信例を示します。

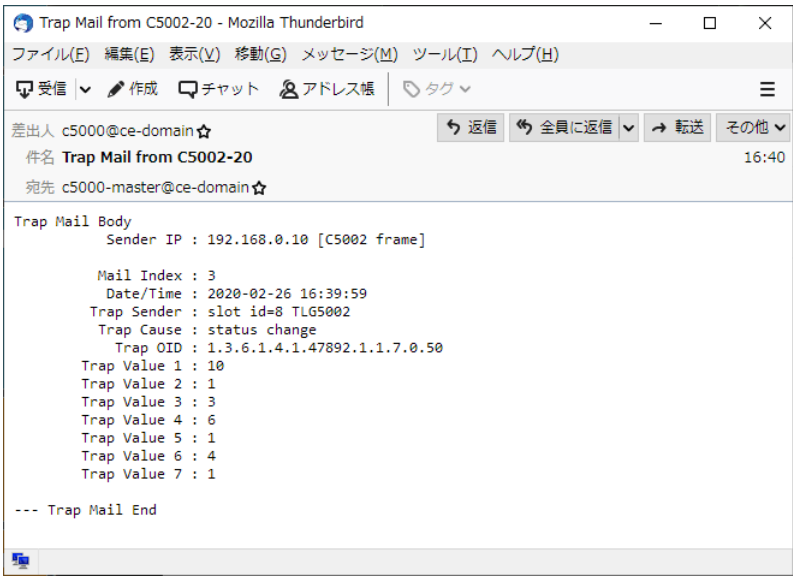


図 4-5 メール送信例

メール 1 件につき 2 行のデータが先頭につきます。

項目	説明
C5002 Trap Mail Body	「件名」で設定した文字列が表示されます。
Sender IP:	送信された C5000 シリーズの設定 IP が表示されます。 ここでは、192.168.0.10 で設定された機器からのトラップメールであることを表しています。 []で囲まれた文字列は製品情報の別名が表示されます。ここでは、「C5002 Frame」と別名設定されていることを表します。

トラップデータ内容が以下のフォーマットで表示されます。

項目	説明
Mail Index	C5000 を起動してからの通算メール件数を表します。 1～4,294,967,295(0xFFFFFFFF)までの番号になります。
Date/Time	発生した日付・時刻を表示します。 NTP 機能の設定が行われていない場合、正しい日付・時刻が表示されません。
Trap Sender	Trap が発生したモジュールのスロット番号、名称が表示されます。
Trap Cause	Trap 発生の要因を示します。要因は以下のものがあります。 •detect (検出) •lost (ロスト) •alarm (異常) •normal (正常) •status change (状態変化) •information (情報) •error (エラー) •unknown (不明) Trap 要因に対応していないモジュールの場合はすべて nknown になります。
Trap OID	Trap OID を表示します。

4.5. 再起動設定

ネットワーク設定を変更した場合、内蔵コントローラ/TLC5001 の再起動が必要になりますが、WebControl から再起動を行うことが出来ます。

※再起動は内蔵コントローラ/TLC5001 のみで、フレーム内のモジュール動作には影響しません。

再起動手順

1. 設定モードにする
2. 「再起動を許可」を「いいえ」から「はい」にする
3. 「コントローラの再起動」の「再起動」ボタンを押す

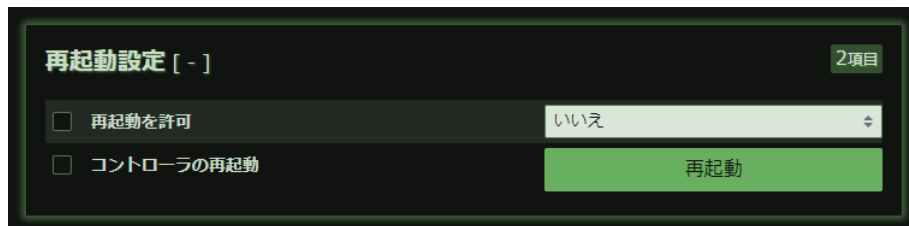


図 4-6 再起動手順 1

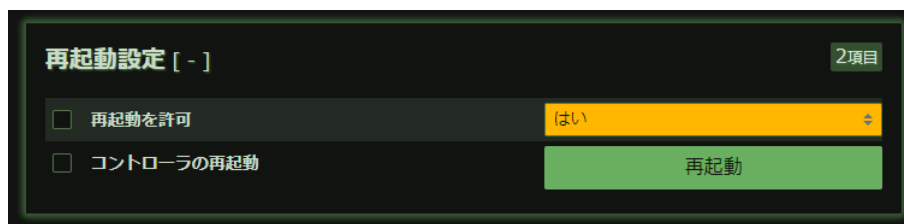


図 4-7 再起動手順 2

5. メニュー詳細

メニューアイコンをクリックすると、メニュー一覧を表示します。

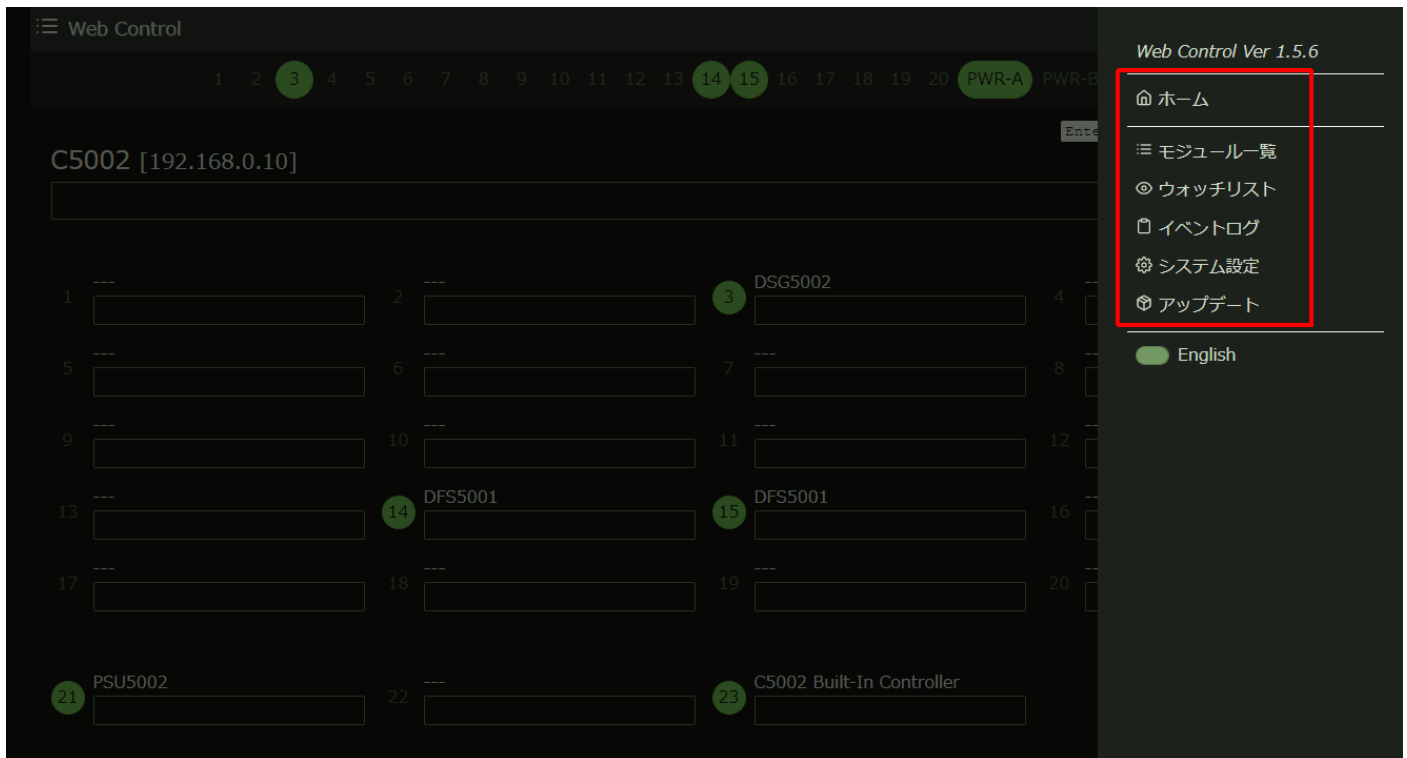


図 5-1 メニューアイコンクリック画面

5.1. ホーム

ホーム画面に遷移します。

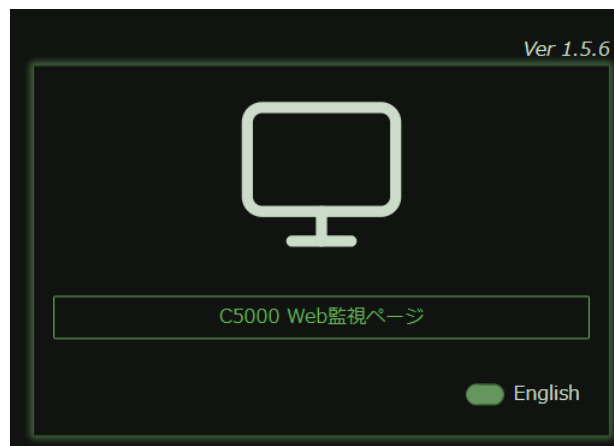


図 5-2 ホーム画面

5.2. モジュール一覧

メニュー一覧内の「モジュール一覧」をクリックすると、C5000 フレームに実装しているモジュールの一覧を表示します。

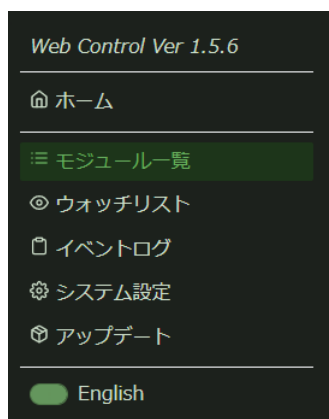


図 5-3 モジュール一覧選択

閲覧モード時のモジュール一覧

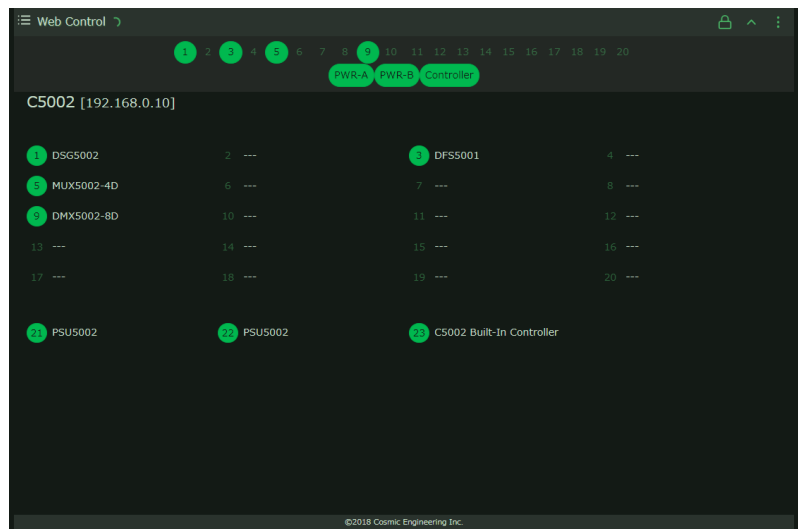


図 5-4 モジュール一覧 (閲覧モード)

設定モード時のモジュール一覧

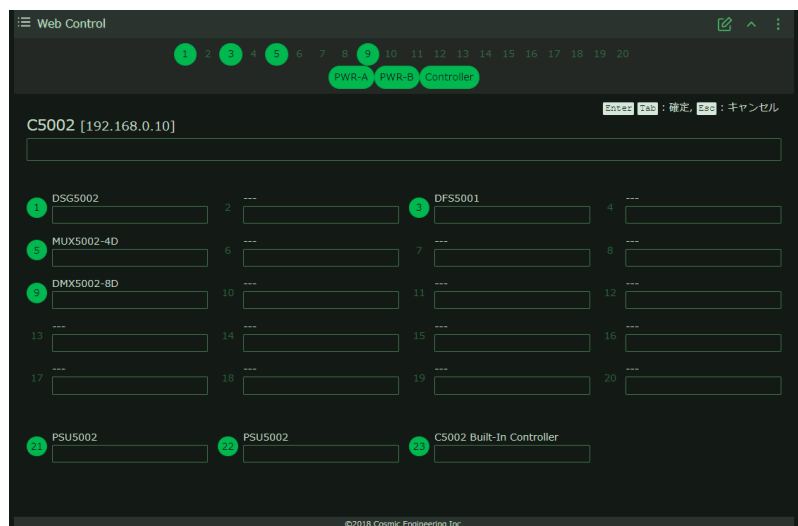


図 5-5 モジュール一覧 (設定モード)

5.2.1. 別名設定例

例として、⑩DFS5001 に“系統 1_FS”、⑪DFS5001 に“系統 2_FS”を入力します。

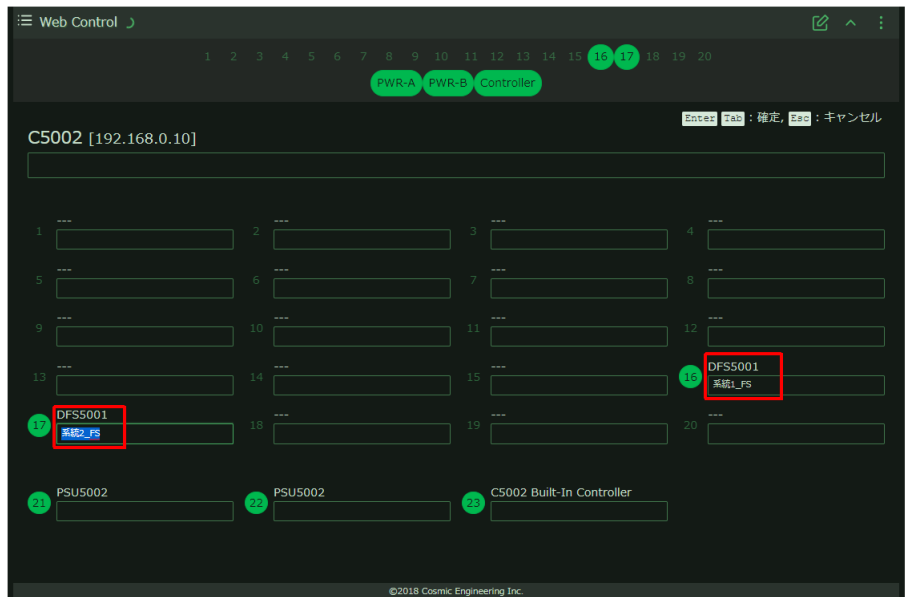


図 5-6 モジュール別名の設定

マウスカーソルをスロット番号に重ねると、モジュール型名と設定した別名を表示します。

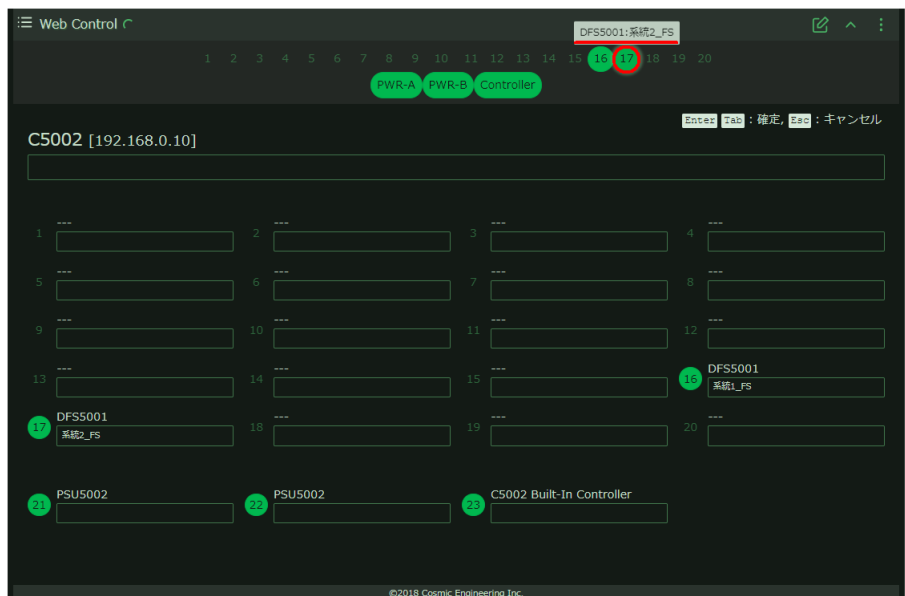


図 5-7 モジュール別名の確認

この設定は、ブラウザに保存されます。次回起動時にこの設定を行う必要はありません。

5.2.2. 複数列表示

各モジュールをクリックすると、モジュールのパラメータ等の確認ができますが、1 行 1 列表示と 1 行複数列表示を切り替えることができます。

複数列表示：OFF



図 5-8 1 列表示

複数列表示：ON



図 5-9 複数列表示

この設定は、ブラウザに保存されます。次回起動時にこの設定を行う必要はありません。

5.3. ウォッチリスト

ウォッチリストは、モジュールごとにウォッチ登録した項目をまとめて、閲覧や設定ができます。

複数モジュールのウォッチ項目が、1 画面に表示されます。

各モジュールのパラメータ画面で、ウォッチ登録します。



図 5-10 ウォッチリスト選択

5.3.1. ウォッチ項目の登録

DSG5002 と DFS5001 を例にします。

I. モジュール画面のパラメータ画面でウォッチする項目のチェックボックスをチェックします。

以下は、DSG5002 各種設定－「リファレンス選択」、ステータス－「リファレンス」をチェックします。

The screenshot shows the Web Control interface for DSG5002 Slot:1. The '各種設定' (General Settings) section is expanded, and the 'リファレンス選択' (Reference Selection) checkbox is checked. The 'ステータス' (Status) section is also expanded, and the 'リファレンス' (Reference) checkbox is checked. The interface is in Japanese and shows various configuration options for the DSG5002 module.

製品情報

製品ID	17	製品廠名	DSG5002 : 2 slot 3G/HD/SD-SDI Signal Generator Module	Version (Firmware)	1.1.4.0
Version (Hardware)	1.0.6.0	占有スロット数	2	別名	DSG5002

各種設定

☒ リファレンス選択	フリーラン	☐ A1/A2 フォーマット	1080I59	☐ A1/A2 水平位相	0
☐ A1/A2 垂直位相	0	☐ B1/B2 フォーマット	1080I59	☐ B1/B2 水平位相	0
☐ B1/B2 垂直位相	0	☐ REF1 フォーマット	525I59	☐ WCLK1 出力	無効
☐ REF1 水平位相	0	☐ REF1 垂直位相	0	☐ REF2 フォーマット	525I59
☐ WCLK2 出力	無効	☐ REF2 水平位相	0	☐ REF2 垂直位相	0
☐ LTC 出力選択	A1	☐ 4K モード	オフ	☐ 4K フォーマット	2160P59A

～

ステータス

☒ リファレンス	525I59	☐ Dipsw1	0x0	☐ Dipsw3	0x0
☐ 内部バス通信エラー	エラー無し	☐ リファレンスアンロックエラー	ロック	☐ LTCアンロックエラー	アンロック

図 5-11 ウォッチリスト登録例 (DSG5002)

Ⅱ. 同様に、DFS5001 各種設定－「リファレンス選択」、ステータス－「SDI 入力 1」、「リファレンス」をチェックします。

Web Control

DFS5001 Slot:3

パラメータ アラート コネクタ その他

複数列表示

製品情報

製品ID	8	製品概要	DFS5001 : 1 slot 3G/HD/SD-SDI Frame Synchronizer Module	Version (Firmware)	1.1.7.0
Version (Hardware)	1.0.6.0	占有スロット数	1	別名	DFS5001

各種設定

入力 1 リレー	オン	☒ リファレンス選択	フレーム	水平位相	0
垂直位相	0	FSEモード	自動音声ミュート	フリーズ動作	フレーム
アンチラリ出力	オン	システムフォーマット	Auto	ATC(LTC)出力	オフ
ATC(VITC)出力	オフ	エンベデッド・グループ1 出力	オン	エンベデッド・グループ2 出力	オン
エンベデッド・グループ3 出力	オン	エンベデッド・グループ4 出力	オン	エンベデッド・グループ5 出力	オフ

～

カレントリマップ出力Ch14	Embln Ch14	カレントリマップ出力Ch15	Embln Ch15	カレントリマップ出力Ch16	Embln Ch16
カレントリマップ出力Ch17	Embln Ch17	カレントリマップ出力Ch18	Embln Ch18	カレントリマップ出力Ch19	Embln Ch19
カレントリマップ出力Ch20	Embln Ch20	カレントリマップ出力Ch21	Embln Ch21	カレントリマップ出力Ch22	Embln Ch22
カレントリマップ出力Ch23	Embln Ch23	カレントリマップ出力Ch24	Embln Ch24	カレントリマップ出力Ch25	Embln Ch25
カレントリマップ出力Ch26	Embln Ch26	カレントリマップ出力Ch27	Embln Ch27	カレントリマップ出力Ch28	Embln Ch28
カレントリマップ出力Ch29	Embln Ch29	カレントリマップ出力Ch30	Embln Ch30	カレントリマップ出力Ch31	Embln Ch31
カレントリマップ出力Ch32	Embln Ch32	カレント音声遅延(ms)	32	カレント遅延(*0.1%)	1000
カレント彩度(*0.1%)	1000	カレント色相(*0.1°)	0	アラーム設定 (内部バス通信エラー)	無効
アラーム設定 (SDI入力 1 アンロックエラー)	無効	アラーム設定 (リファレンス アンロックエラー)	無効	アラーム設定 (LTCアンロックエラー)	無効
トラップ設定 (SDI入力 1 アンロックエラー)	無効	トラップ設定 (リファレンス アンロックエラー)	無効	トラップ設定 (LTCアンロックエラー)	無効
初期設定に戻す	いいえ	コンフィグファイルに書き込み	いいえ		

ステータス

☒ SDI入力 1	525159	☒ リファレンス	525159	Dipsw1	0x0
Dipsw3	0x0	内部バス通信エラー	エラー無し	SDI入力 1 アンロックエラー	ロック
リファレンスアンロックエラー	ロック	LTCアンロックエラー	アンロック		

©2018 Cosmic Engineering Inc.

図 5-12 ウォッチリスト登録例 (DFS5001)

5.3.2. ウォッチリスト表示

メニューから「ウォッチリスト」を選択します。

設定したモジュールとウォッチ項目を表示します。

また、設定モード時はこの画面で設定の変更ができます。

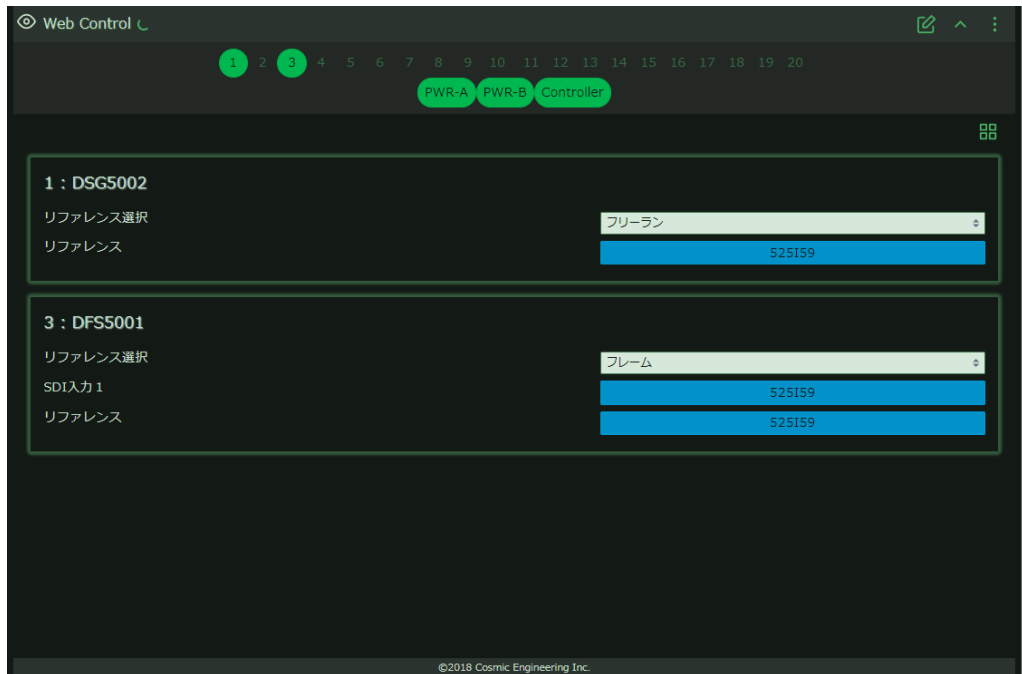


図 5-13 ウォッチリスト表示

表示カラム数の変更

「表示カラム数」アイコンをクリックし、カラム数欄をクリックすると表示カラム数のリストを表示します。

1、2、3、4、6 から選択します。

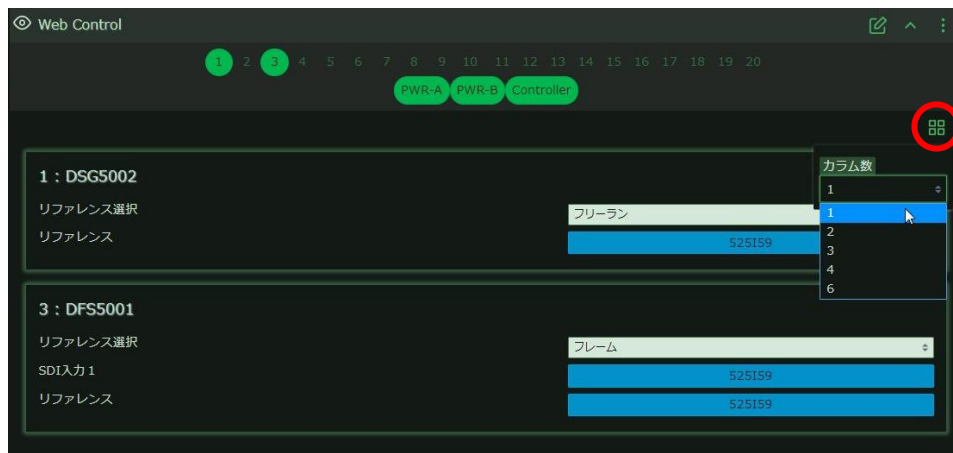


図 5-14 表示カラム数 選択画面

表示カラム数 2 を選択した場合、図 5-14 のようになります。

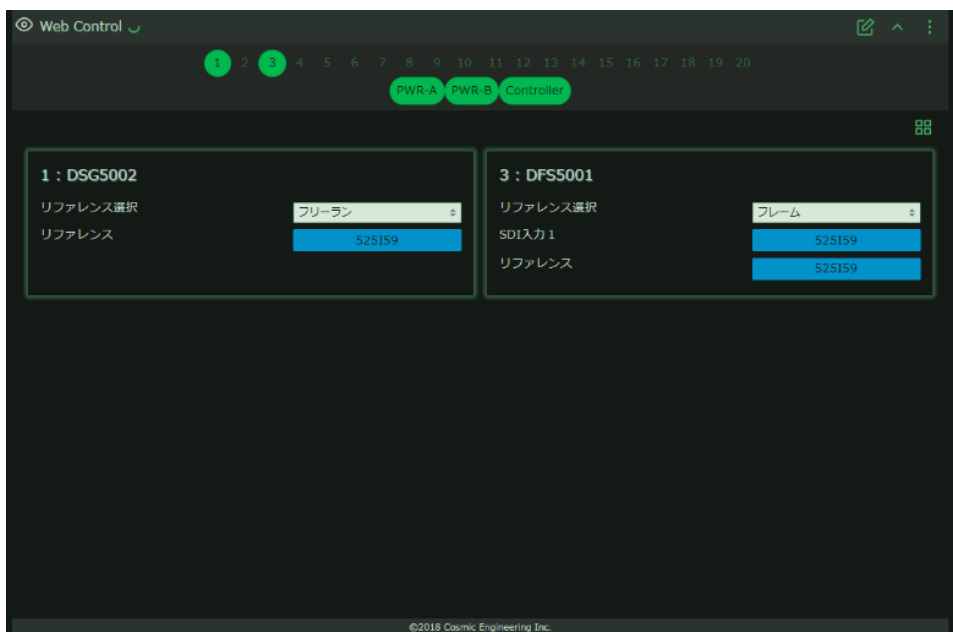


図 5-15 ウォッチリスト表示 カラム数 2 の表示例

5.4. イベントログ

イベントログの表示と保存を行います。



図 5-16 イベントログ 選択

イベントログは、Google Chrome で WebControl と接続し、「C5000 Web 監視ページ」をクリックした以降から採取します。

監視ページを閉じたり、Google Chrome を終了するとイベントログは消失します。

PC に保存の際は、「イベントログの保存」を実施願います。

イベントは赤：エラー、黄：警告、緑：通知、青：情報で分類されます。

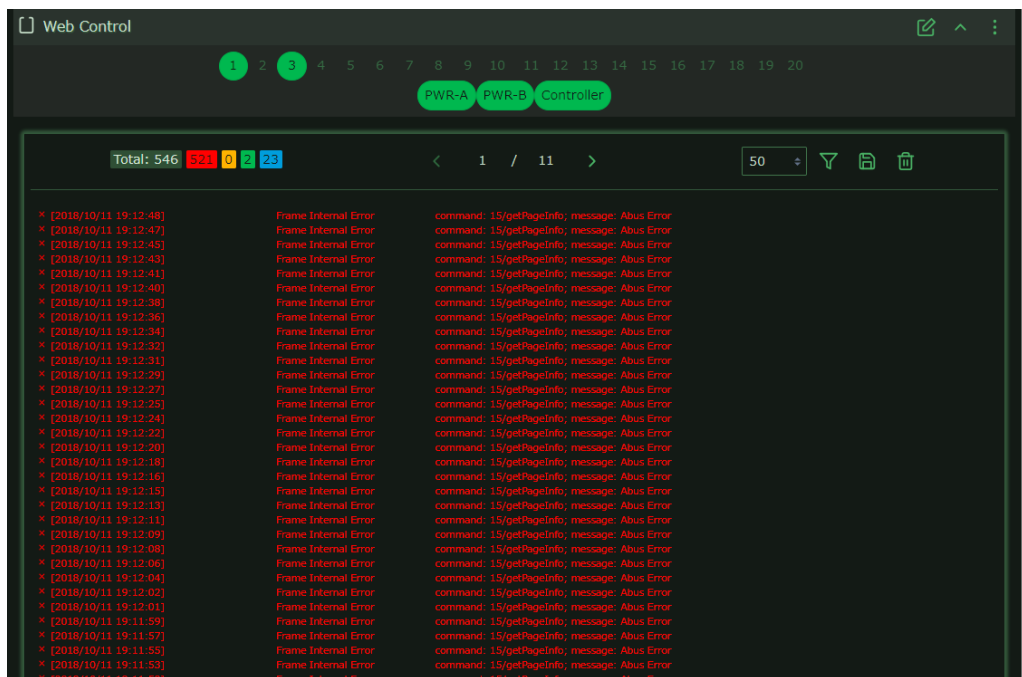


図 5-17 イベントログ例

5.4.1. イベント数表示とページ操作

【イベント一覧表示】

Total: 14 1 2 2 9 < 1 / 1 >

【イベント フィルタリング表示】

Total: 14 (1) 1 (1) 2 (0) 2 (0) 9 (0) < 1 / (1) >

※ () はフィルタリング設定で絞り込んだイベント数

Total : 総イベント数

赤 : エラーイベント数

黄 : 警告イベント数

緑 : 通知イベント数

青 : 情報イベント数



 前のページへ移動 現在のページ 全ページ数 次のページへ移動

※現在のページをクリックすると、任意のページが入力でき移動します。

5.4.2. 表示行数の設定

1 ページ当たりの表示行数を設定します。

行数欄をクリックし、50、100、200、500、all から選択します。

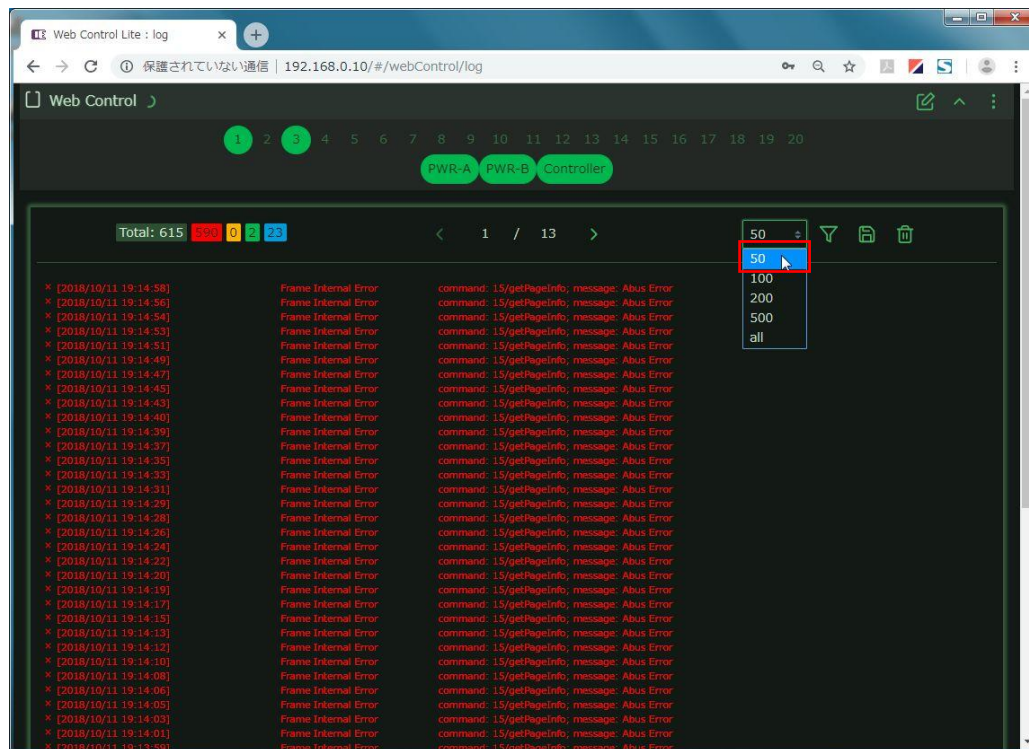


図 5-18 イベントログ 表示行数設定

5.4.3. フィルタリング設定

イベントリスト一覧をフィルタリングして、確認したいイベントを抽出できます。

I. フィルタリングアイコンをクリックします。

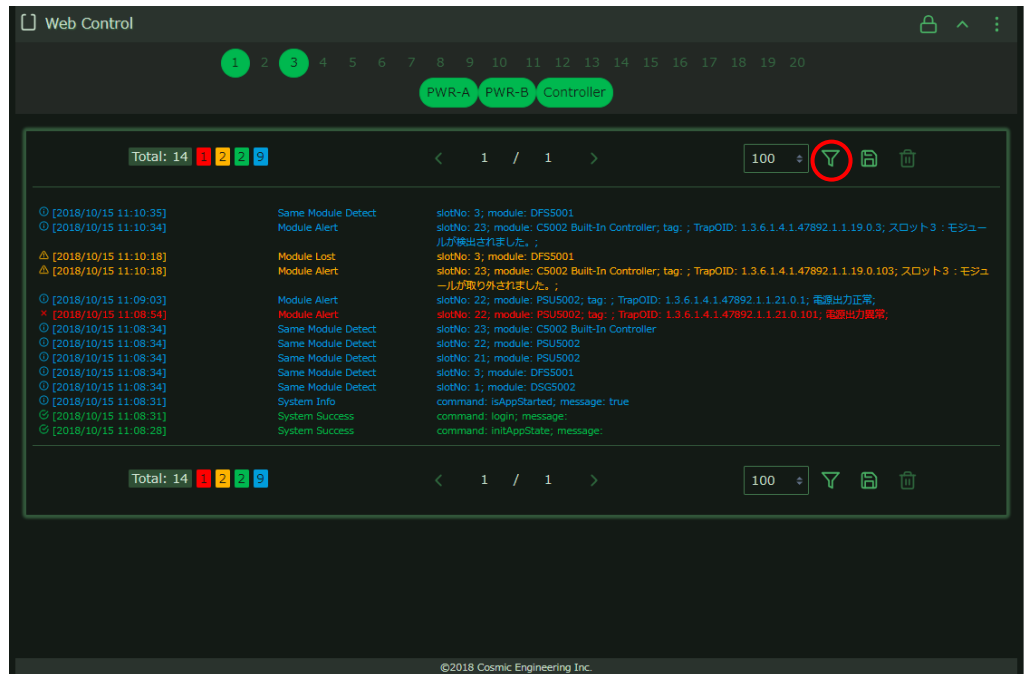


図 5-19 イベントログ フィルタリング設定 1

Ⅱ. フィルタリング設定で抽出したい項目をチェックします。（下図は、ステータス - エラー をチェック）

「絞り込み」をクリックすると、エラーステータス行を表示します。



図 5-20 イベントログ フィルタリング設定 2

さらに、「情報」をチェックすると、エラーステータスと情報を表示します。



図 5-21 イベントログ フィルタリング設定 3

5.4.4. フィルタリング設定 項目

1) イベントタイプ

■システム関連：WebControl 自体に関するイベントを表示します。

- ・システムエラー
- ・システム警告
- ・システム通知
- ・システム情報
- ・ネットワークエラー
- ・フレーム内部エラー
- ・パスワード変更
- ・パスワードリセット

■フレーム関連：モジュールに関するイベント（トラップ・アラート以外）を表示します。

- ・モジュール未検出（モジュールが抜けた）
- ・新規モジュール検出
- ・登録済みモジュール検出
- ・フレーム種別変更（C5001 から C5002 に変わった、またはその逆）
- ・フレーム設定変更（MAC アドレス変更、など）
- ・モジュール情報変更（設定項目が増えた場合、など）
- ・モジュールバージョン変更
- ・モジュールパラメータ変更

■トラップ・アラート：各モジュールのトラップ・アラートを表示します。

- ・各モジュールのトラップ・アラート
- ・アラート取得失敗（トラップ・アラートが多数発生し、コントローラ内部のバッファがオーバーフローした時）

2) ステータス

- ・エラー（赤）
- ・警告（黄）
- ・通知（緑）
- ・情報（青）

3) モジュール指定：スロット番号あるいはモジュール型名を指定します。



The screenshot shows a dark-themed dialog box titled 'モジュール指定' (Module Selection) with a green checkmark icon. Below the title, there are two radio button options: 'スロット番号' (Slot Number) and 'モジュール名' (Module Name). The 'スロット番号' option is selected, indicated by a green dot. Below this option is a text input field containing the number '1'. The 'モジュール名' option is unselected, indicated by a grey dot. Below this option is a dropdown menu showing 'DFS5001'.

図 5-22 モジュール指定 スロット番号指定画面



The screenshot shows the same 'モジュール指定' (Module Selection) dialog box. In this view, the 'モジュール名' (Module Name) option is selected, indicated by a green dot. The 'スロット番号' option is unselected, indicated by a grey dot. Below the 'モジュール名' option is a dropdown menu that is open, displaying a list of module names: 'DFS5001', 'DSG5002', 'DFS5001', 'PSU5002', and 'C5002 Built-In Controller'. The first 'DFS5001' entry is highlighted in blue, and a mouse cursor is pointing at it. The text input field above the dropdown menu contains the number '1'.

図 5-23 モジュール指定 モジュール名指定画面

5.4.5. フィルタリング設定 画面表示

「フィルタリング」アイコンをクリックします。



図 5-24 フィルタリングログ 表示/非表示ボタン

5.4.6. フィルタリング表示解除

「解除」アイコンをクリックします。



図 5-25 フィルタリング表示解除 アイコン

5.4.7. イベントログの保存

「保存」アイコンをクリックします。

Google Chrome のダウンロードフォルダーにイベントログを保存します。

ファイル名は、「eventlog_YYYYMMDD_HHMMSS.log」です。

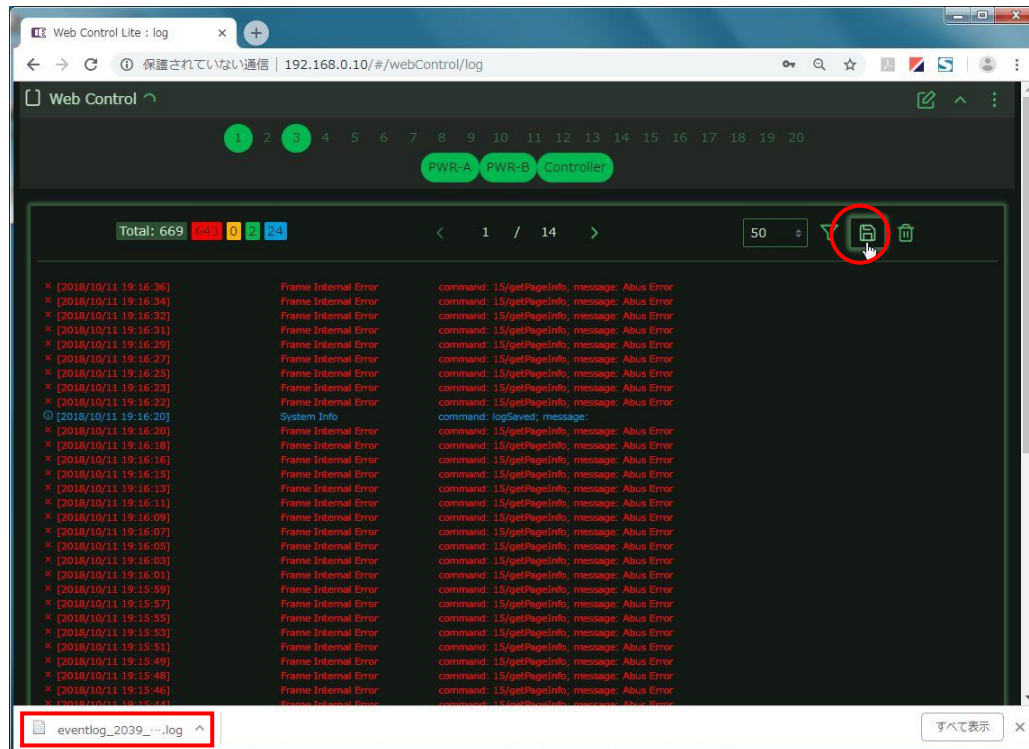


図 5-26 イベントログの保存 アイコン

5.4.8. イベントログのクリア

「ゴミ箱」アイコンをクリックします。

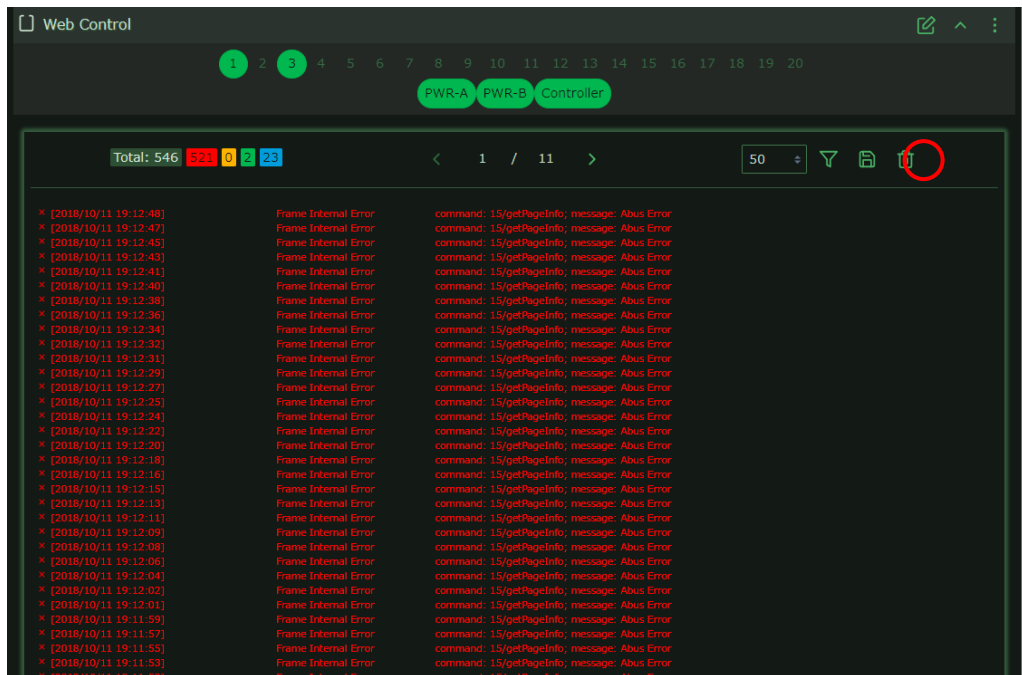


図 5-27 イベントログのクリア アイコン

イベントログをクリアするには「OK」をクリックします。「キャンセル」で中断します。

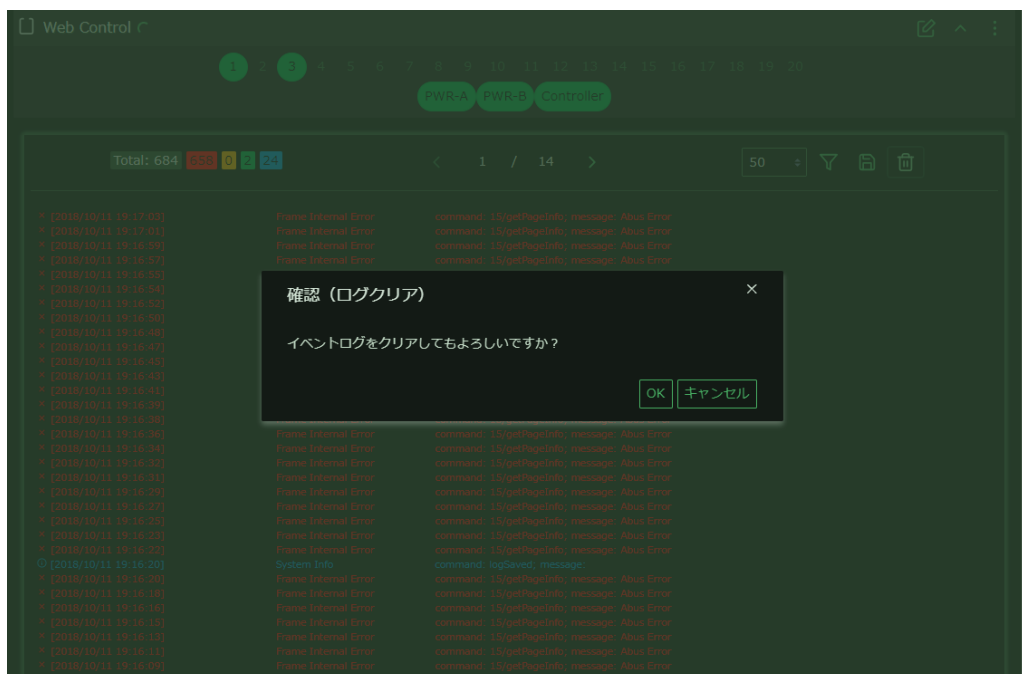


図 5-28 イベントログのクリア 確認

5.5. システム設定

システム設定には、「全般」、「アラート設定」、「アラート音登録」、「その他」があります。

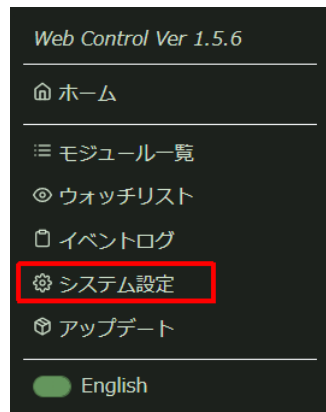


図 5-29 システム設定 選択

5.5.1. 全般タブ



図 5-30 システム設定 全般

ポップアップ設定

ポップアップ表示全般の表示位置、表示が消えるまでの時間を設定します。

確認ダイアログ

モジュールへ設定値を書き込む際に確認する/しないを設定します。

確認するに設定した場合は、モジュールの設定値を変更するたびに下記ダイアログを表示します。

モジュールに書き込む際は「OK」をクリックします。「キャンセル」で破棄します。



図 5-31 システム設定変更 確認

イベントログ

イベントログのバッファサイズを指定します。

バッファサイズを超えた場合は古いイベントから順に削除されます。

ページ描画

ブラウザの画面全体に表示する/しないを指定します。

時計情報

チェックするとイベントログの時刻を C5000 の内蔵時計に合わせ、チェックオフするとパソコンの時刻に合わせます。

初期化

WebControl の全設定値を初期化します。

「初期化」をクリックします。

確認のダイアログを表示しますので、初期化する場合は「OK」をクリックします。「キャンセル」で中断します。



図 5-32 初期化 確認画面

5.5.2. アラート設定タブ



ポップアップ表示するアラートを設定します。

I .アラート項目

- ・モジュール未検出
- ・新規モジュール検出
- ・登録済みモジュール検出
- ・アラート取得失敗
- ・フレーム種別変更
- ・フレーム設定変更
- ・モジュール情報変更
- ・モジュールバージョン変更
- ・パスワード変更
- ・パスワードリセット
- ・モジュールパラメータ変更
- ・ネットワークエラー
- ・フレーム内部エラー
- ・システムエラー
- ・システム警告
- ・システム通知
- ・システム情報

II .設定項目

- ・ユーザーメッセージ：任意のメッセージ
- ・ポップアップ表示：表示/非表示
- ・表示色：赤/黄/緑/青
- ・自動消去：自動消去 ON/自動消去 OFF
- ・アラート音：ON/OFF
- ・アラート音ループ再生：LOOP/NO LOOP
- ・音声ファイル指定：登録済み音声より選択

アラート設定例（フレーム内部エラー）

「設定モード」であることを確認します。

エラーメッセージが「フレーム内部エラー」までスクロールします。

「ポップアップ表示－表示」をクリックして、非表示に変更します。

非表示に変更後、「フレーム内部エラー」表示をクリックしてポップアップ表示を消してください。

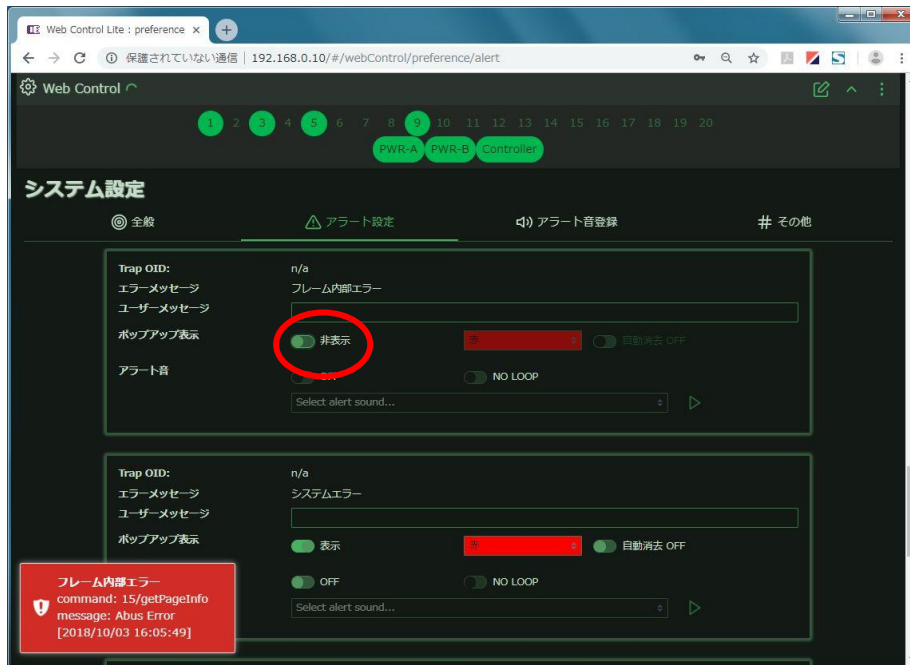


図 5-33 フレーム内部エラー 非表示

この設定は、ブラウザに保存されます。次回起動時にこの設定を行う必要はありません。

5.5.3. アラート音登録タブ

ポップアップ表示する際のアラート音を登録します。アラート音の ON/OFF、繰り返しは「アラート設定」で行います。

アラート音は、音声ファイルを再生します。音声ファイルは 64 ファイルまで登録できます。

また、登録した音声ファイルの削除も行えます。

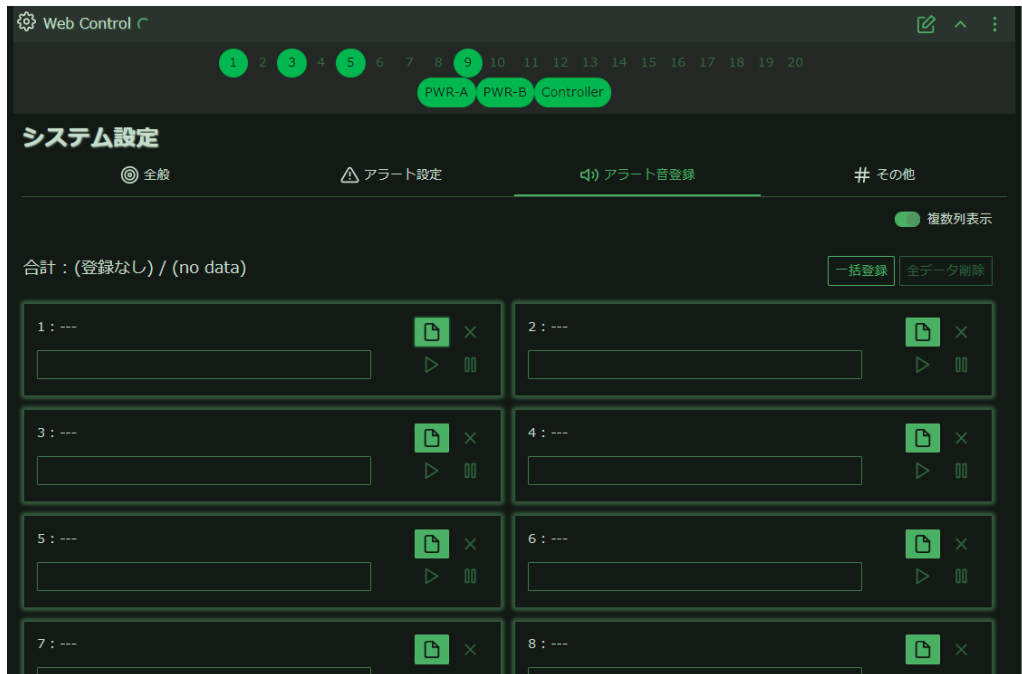


図 5-34 アラート音登録タブ

音声ファイルの登録

I. 音声ファイルを選択します。「ファイル」アイコンをクリックします。

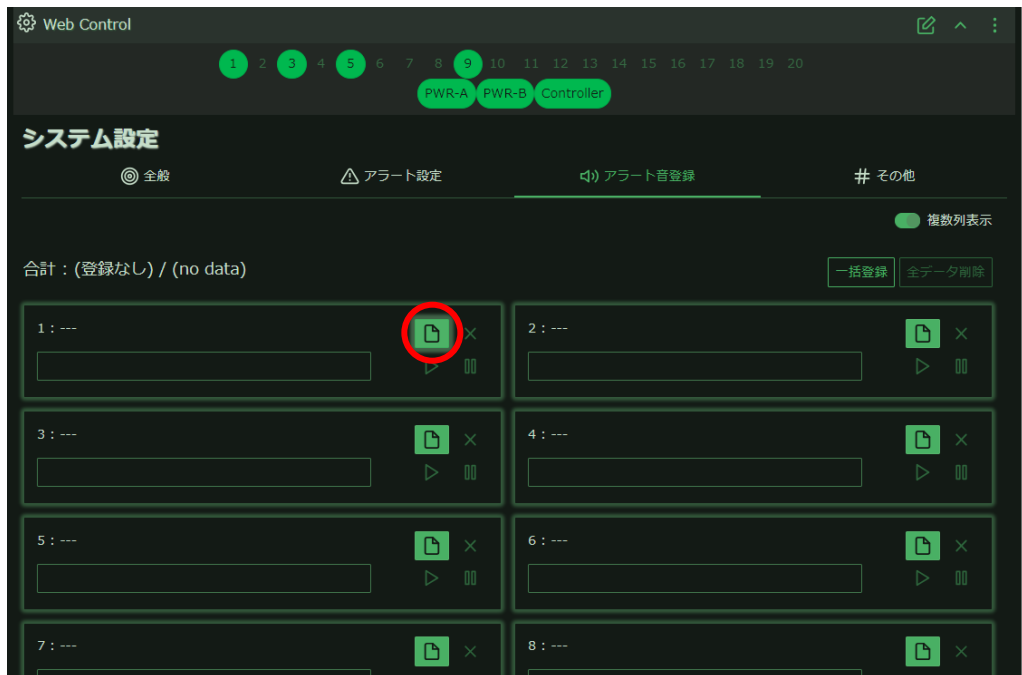


図 5-35 音声ファイルの登録 1

II. ファイル選択ダイアログから音声ファイルを選択し、「開く」をクリックします。

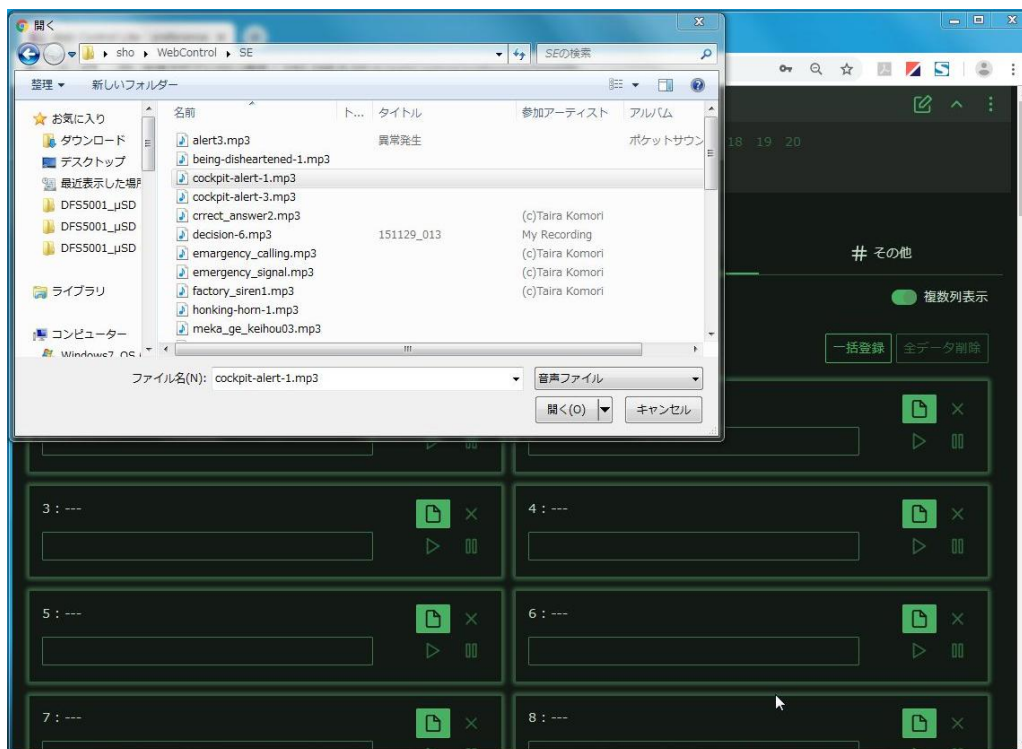


図 5-36 音声ファイルの登録 2

III. 音声ファイルが登録され、名称、再生時間、ファイル容量を表示します。
また、「▶」アイコンで、プレビュー確認（ファイル再生）できます。

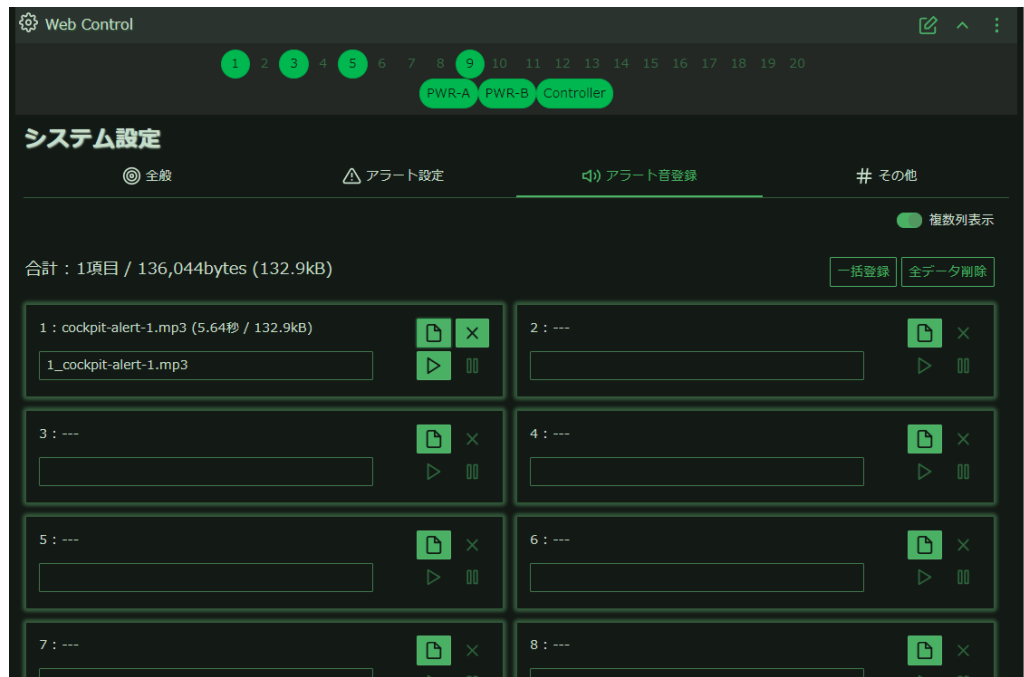


図 5-37 音声ファイルの登録 3

音声ファイル登録時、テキストボックス（名称）にはデフォルトで『(番号)_(ファイル名)』が設定されます。変更する際は、テキストボックスを直接書き換えます。

システムおよび各モジュールのアラート設定で音声ファイルを選択するリストには、このテキストボックスに入力された名称が表示されます。

音声ファイルの一括登録

I. 音声ファイルを選択します。「一括登録」アイコンをクリックします。

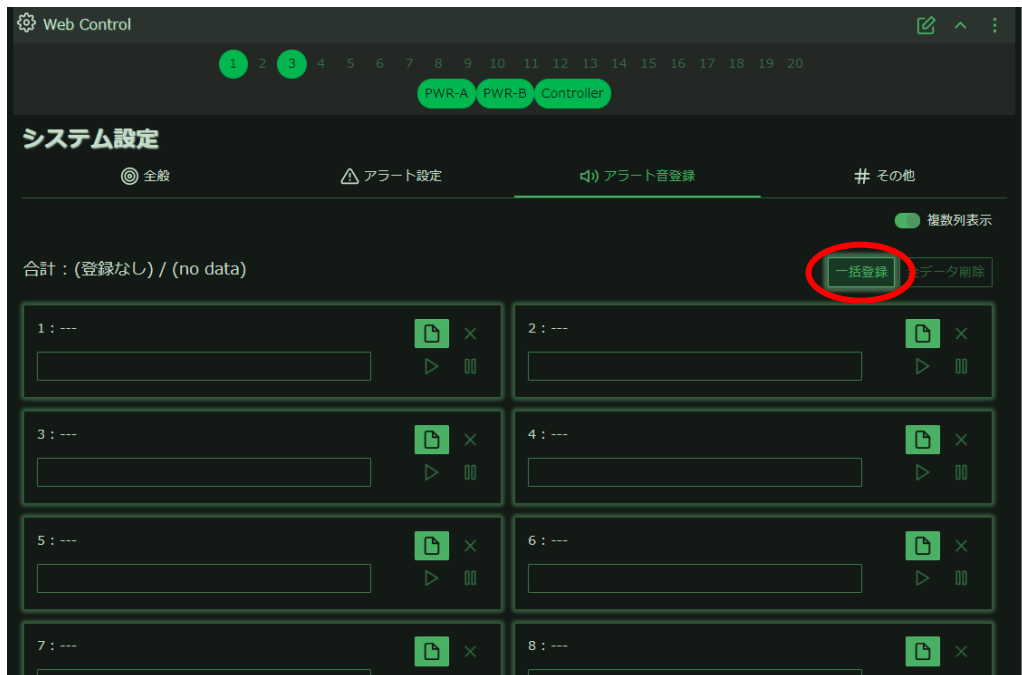


図 5-38 音声ファイルの一括登録 1

II. 「ここを[クリック]して～」をクリックしファイル選択ダイアログで音声ファイルを選択します。

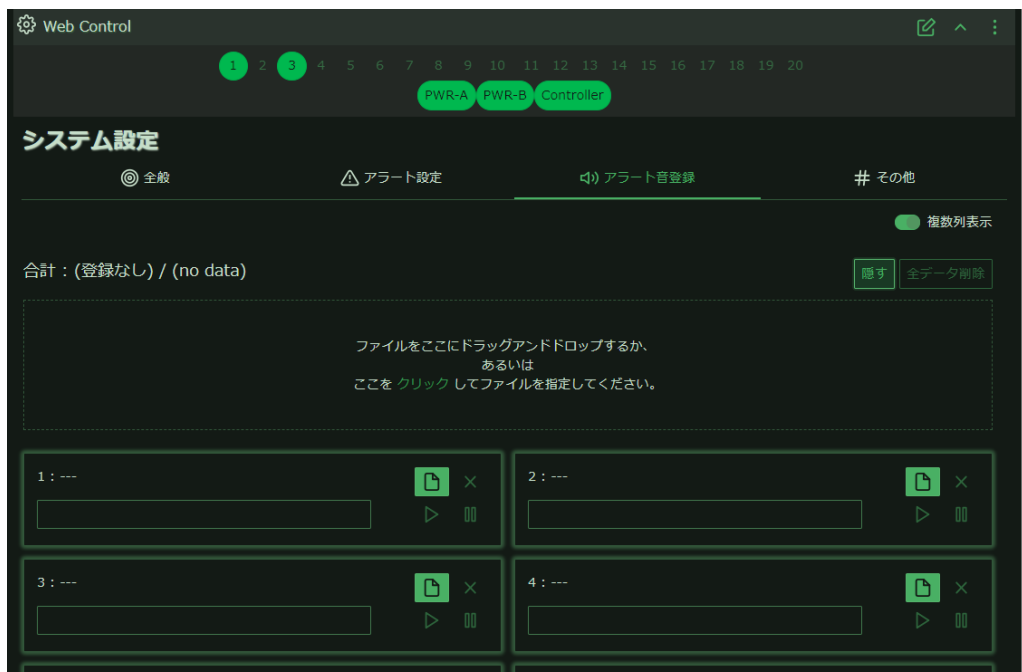


図 5-39 音声ファイルの一括登録 2

Ⅲ. ファイル選択ダイアログから複数の音声ファイルを選択し、「開く」をクリックします。

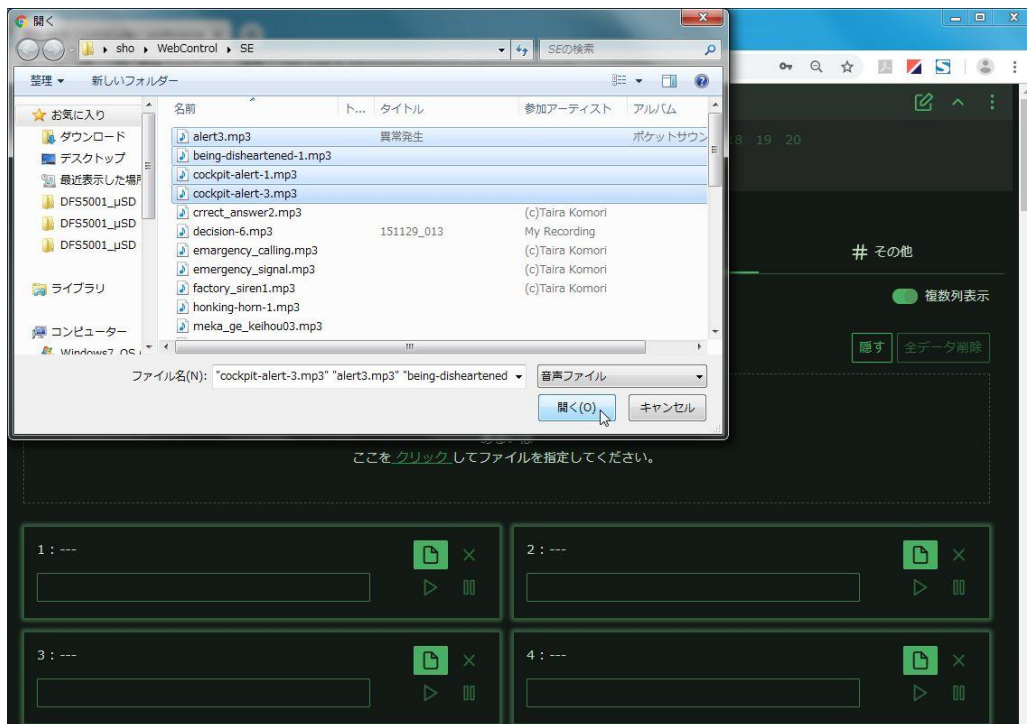


図 5-40 音声ファイルの一括登録 3

Ⅳ. 若番から空いている番号に自動的に登録し、ファイル名、再生時間、ファイル容量を表示します。
また、「▶」アイコンで、プレビュー確認（ファイル再生）できます。



図 5-41 音声ファイルの一括登録 4

音声ファイル登録時、テキストボックス（名称）にはデフォルトで『(番号)_(ファイル名)』が設定されます。変更する際は、テキストボックスを直接書き換えます。

システムおよび各モジュールのアラート設定で音声ファイルを選択するリストには、このテキストボックスに入力された名称が表示されます。

音声ファイルの削除

I. 削除する音声ファイル項目の「×」アイコンをクリックします。

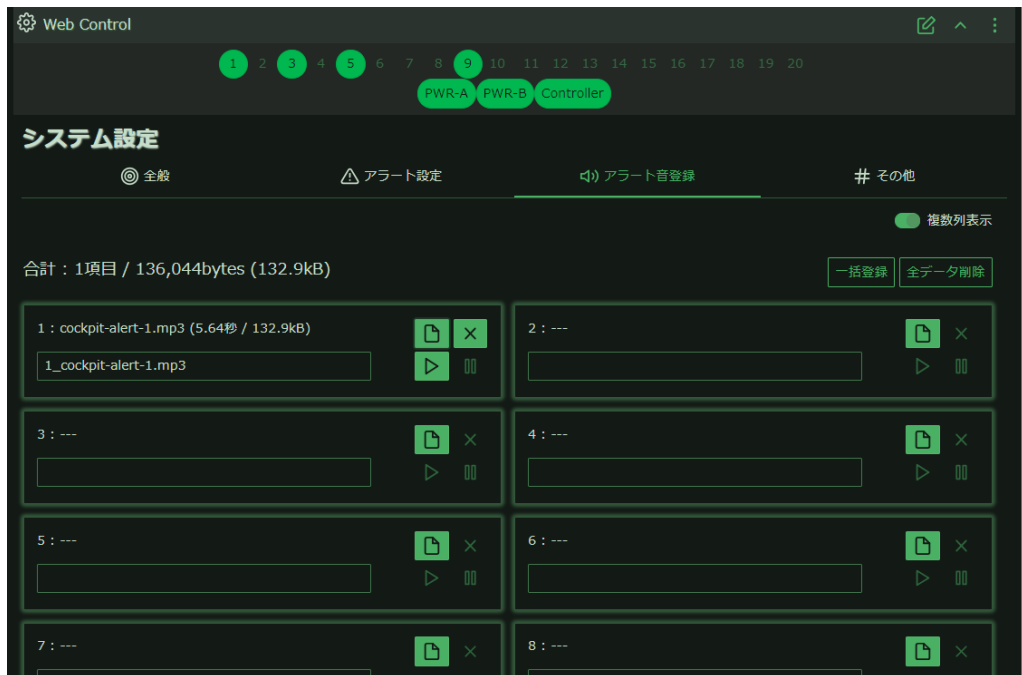


図 5-42 音声ファイルの削除 1

II. 確認画面を表示します。削除する場合は「OK」をクリックします。「キャンセル」で中断します。

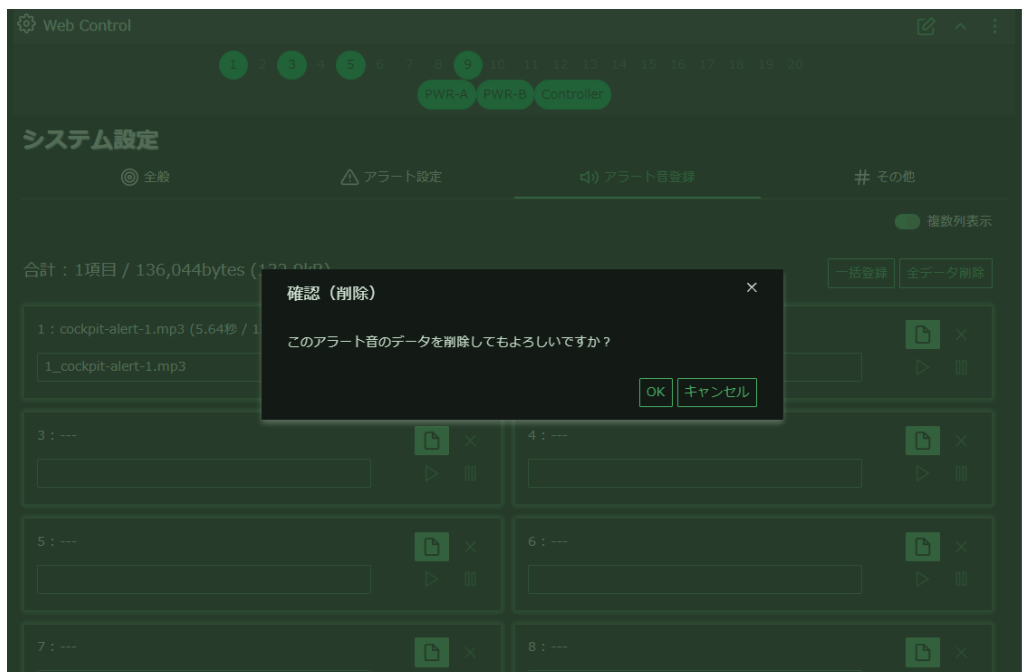


図 5-43 音声ファイルの削除確認

音声ファイルの全削除

I. 「全データ削除」アイコンをクリックします。

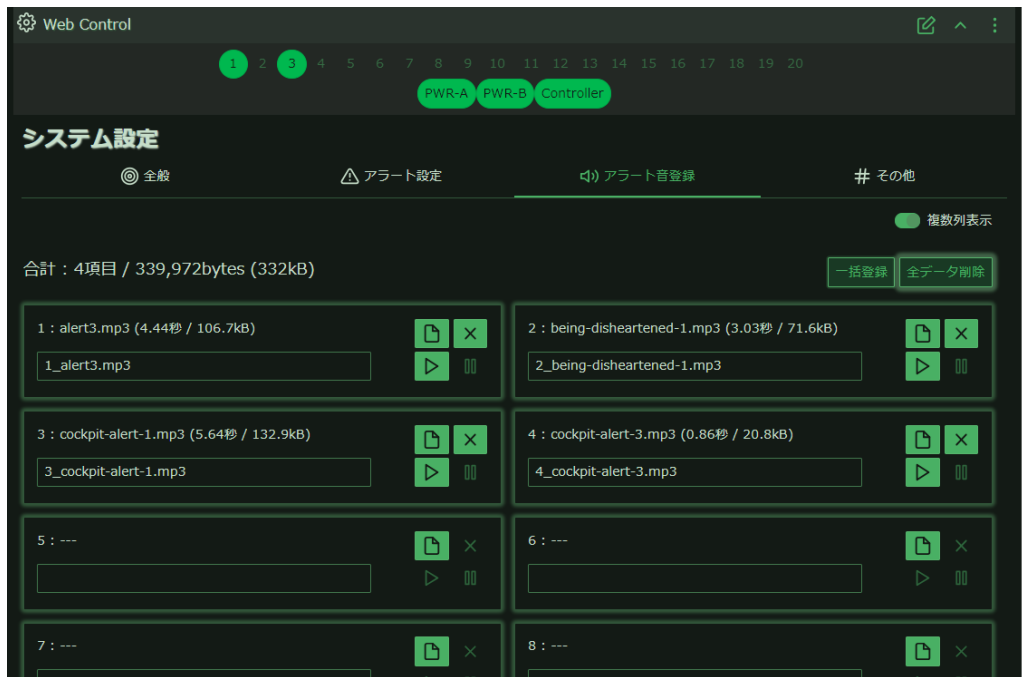


図 5-44 音声ファイルの全削除 1

II. 確認画面を表示します。削除する場合は「OK」をクリックします。「キャンセル」で中断します。



図 5-45 音声ファイルの全削除 確認

音声ファイル仕様

Windows/Chrome の環境では、以下の音声ファイルに対応しています。

「.wav」,「.mp3」,「.ogg (Vorbis)」,「.m4a (MPEG4 AAC)」

5.5.4. その他タブ

設定の保存と復元

システム設定で設定した値は、設定した PC 上に保存しています。

PC を更新する場合や他の PC で WebControl を実行するときは、設定の保存と復元で設定値を移動します。

現 PC でシステム設定の保存をしたデータファイルを移行先の PC で復元します。

あるいは、バックアップとしてデータファイルを管理します。

設定の保存

I. 処理の選択で「保存」をチェックし、保存する項目をチェックします。

「全機能モジュールの設定」は、C5000 フレームに実装している各モジュールの設定値です。

各モジュールの設定は、モジュールごとの設定画面でも保存することができます。

保存ファイル名を入力します。



図 5-46 システム設定の保存

II. 「保存」をクリックすると C5002 フレームからダウンロードします。

保存先は Google Chrome で設定されているダウンロードフォルダーです。

ファイルの拡張子は「.json」です。

設定の復元

I. 処理の選択で「復元」をチェックします。



図 5-47 設定の復元 1

II. 復元するデータファイルを選択します。

「ここを[クリック]して～」でファイル選択ダイアログからデータファイルを選択します。

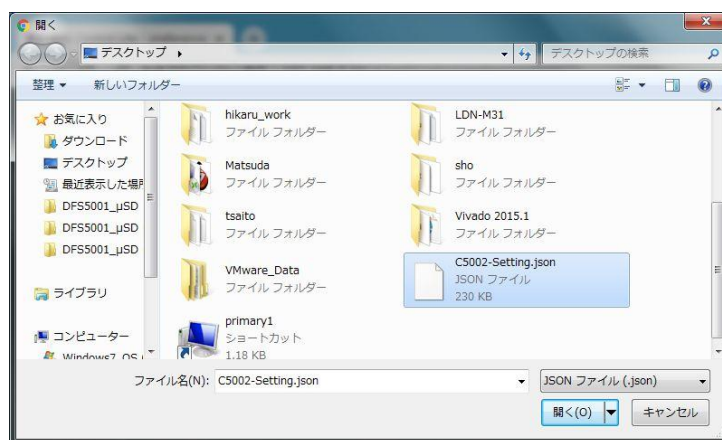


図 5-48 設定の復元 2

Ⅲ. 復元する項目をチェックし、「復元」をクリックします。



図 5-49 設定の復元 3

IV. 復元が終わったら、ホーム画面に遷移してページの「再読み込み」を行います。
画面上で右クリックして、「再読み込み」をクリックします。

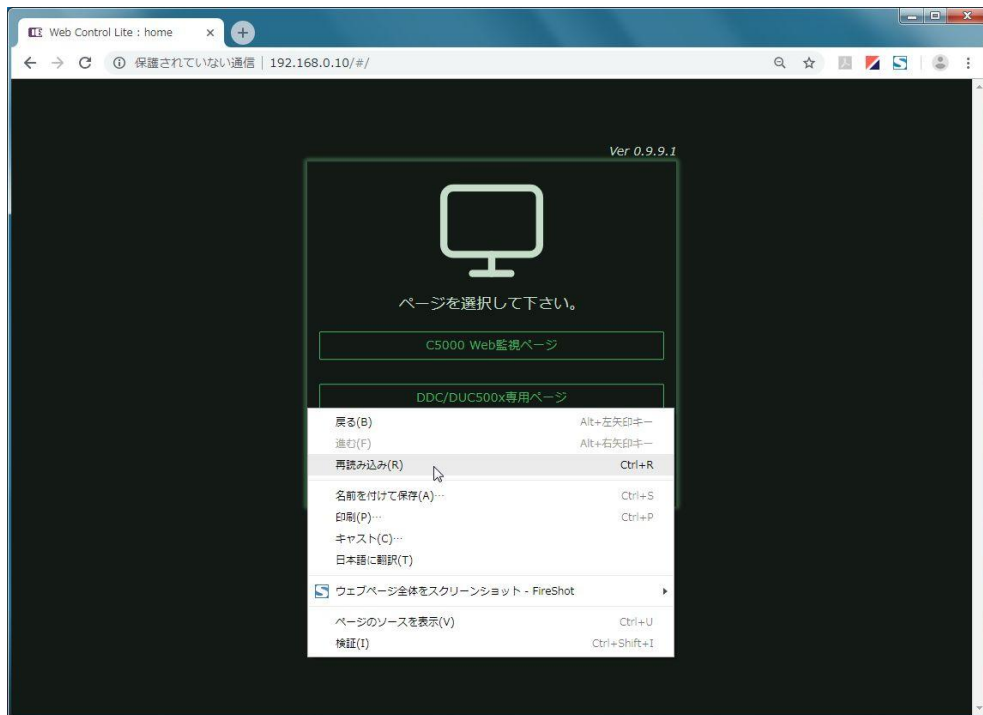


図 5-50 設定の復元 4

5.6. アップデート

C5000 フレームに実装しているモジュール、内蔵コントローラや電源ユニットのファームウェア(FW)、および FPGA プログラム (FPGA)のアップデートを行います。

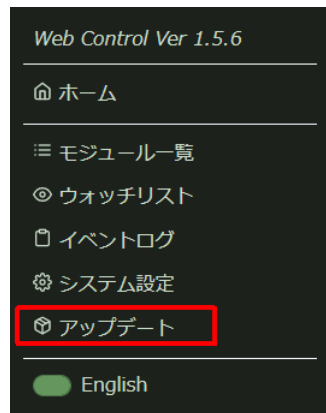


図 5-51 アップデート 選択

各プログラムデータは弊社よりご提供いたします。

I. モジュールの選択をクリックし、アップデートするモジュールを選択します。

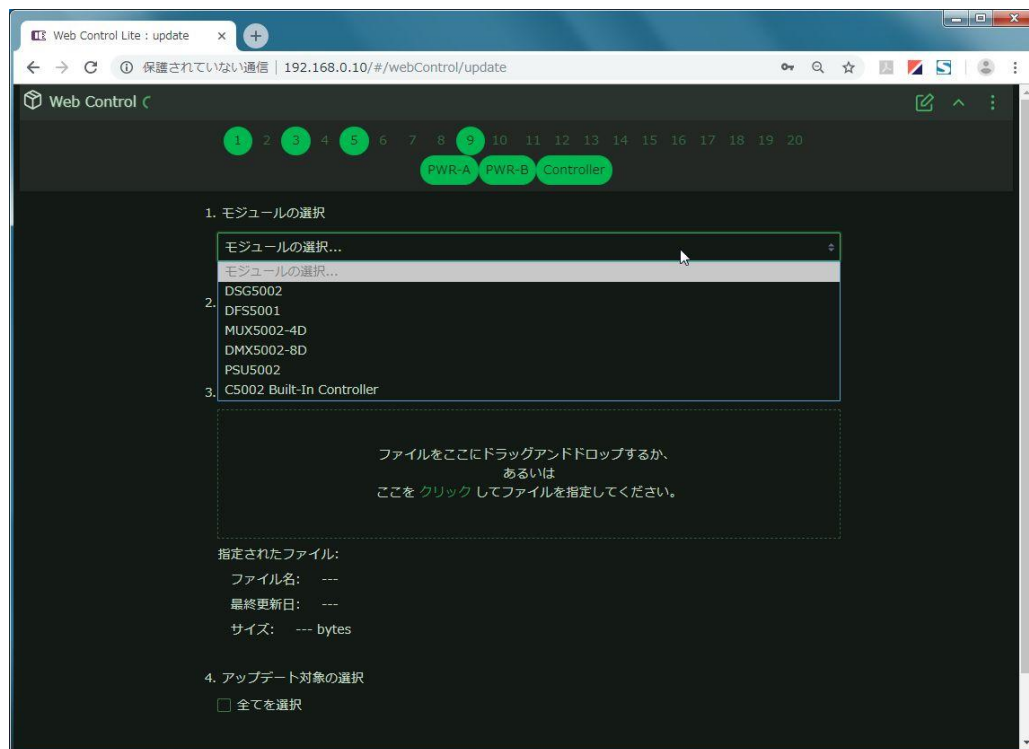


図 5-52 アップデート モジュール選択

Ⅱ．デバイスの選択をクリックし、アップデートするデバイスを選択します。

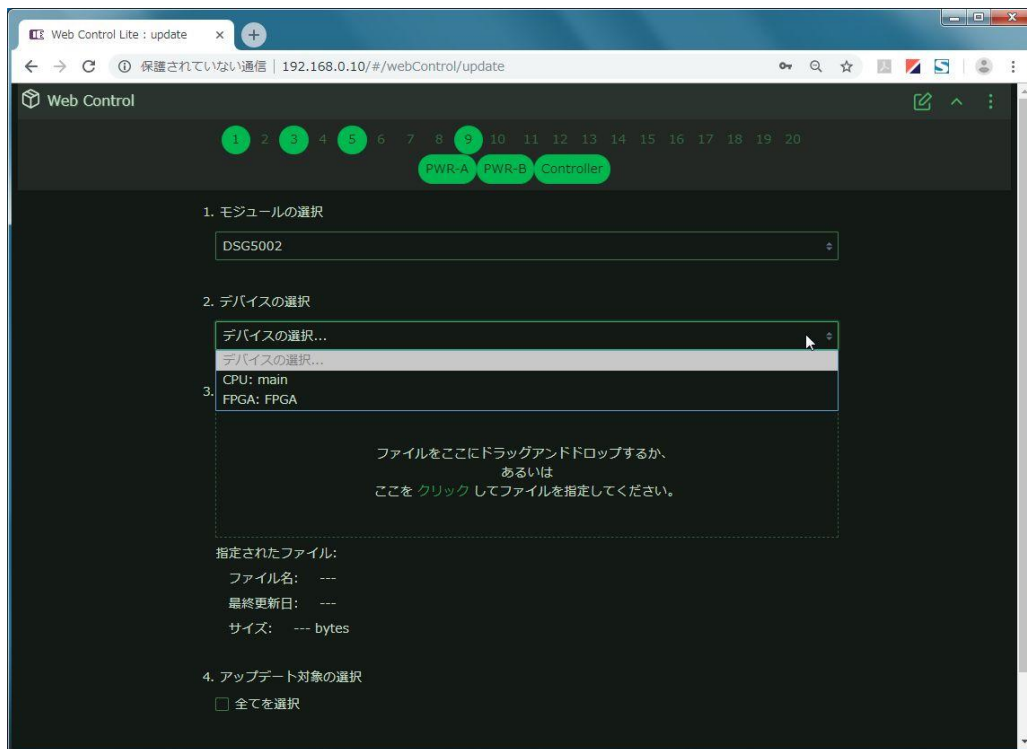


図 5-53 アップデート デバイス選択

Ⅲ．「ここを[クリック]して～」をクリックしファイル選択ダイアログでプログラムデータファイルを選択します。

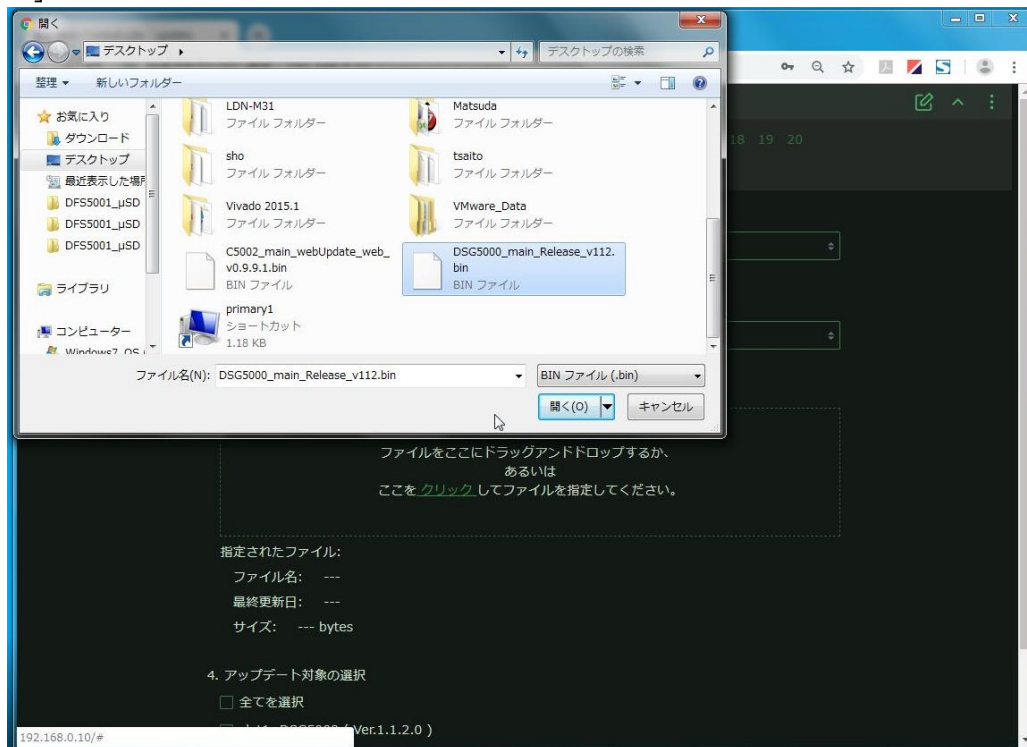


図 5-54 アップデート ファイル選択

IV. アップデート対象を選択し、「アップデート」をクリックします。



図 5-55 アップデート ボタン

アップデート中

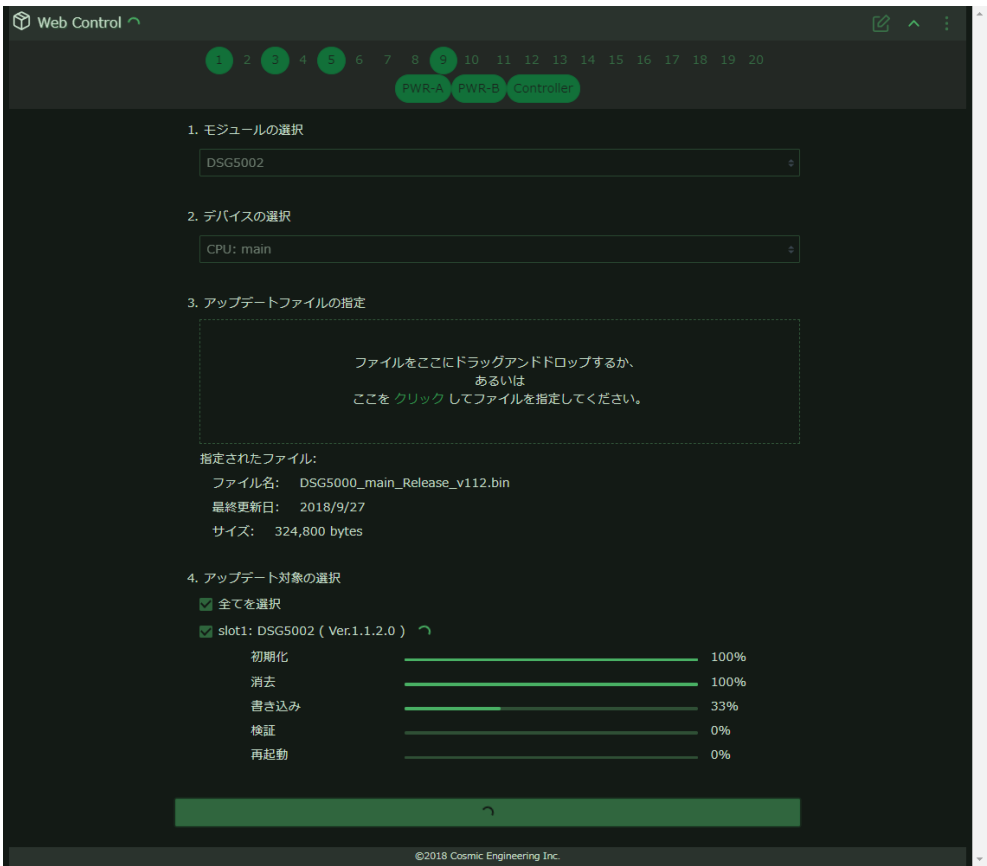


図 5-56 アップデート 進行画面

アップデート完了



図 5-57 アップデート 完了画面

6. モジュールの設定確認・変更例 ～DFS5001～

以下に DFS5001 モジュールの設定確認・変更例を記します。

モジュールの設定確認・変更は、各モジュールの取扱説明書を参照してください。

モジュール一覧表示で、設定変更あるいは設定確認を行う DFS5001 の緑表示をクリックすると、パラメータ画面に遷移します。

6.1. 設定変更

設定モードであることを確認します。()

パラメータ画面で各項目を設定します。設定は即座に反映します。

パラメータを変更した際に、「モジュールパラメータ変更」のポップアップを表示します。

このポップアップ表示は、非表示にすることもできます。

2.設定－(2)「モジュールパラメータ変更」ポップアップ表示を非表示にする。を参照してください。

WebControl で設定できる項目は「(3) DFS5001 設定項目一覧」を参照してください。

また、設定値の詳細は、「93-10064-**-DFS5001_2 取扱説明書」を参照してください。

6.2. マイクロ SD カードへ保存（cfg ファイルの保存）

設定値をマイクロ SD カードに保存するときは、「コンフィグファイルに書き込み」で行います。

書き込み先をプリセット 1～12 から選択します。

共通項目は常に書き込まれます。

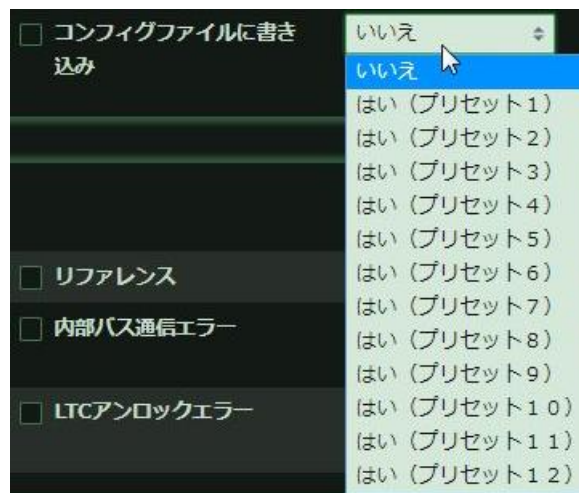


図 6-1 CFG 選択

6.3. DFS5001 設定項目一覧

Web Control

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

PWR-A PWR-B Controller

DFS5001 [DFS-17] Slot:17

パラメータ アラート コネクタ その他

複数表示

製品情報

製品ID: 8 製品概要: DFS5001 : 1 slot 3G/HD/SD-SDI Frame Synchronizer Module Version (Firmware): 1.1.3.0

Version (Hardware): 1.0.6.0 占有スロット数: 1 別名: DFS5001_17

各種設定

131項目

入力リレー	オン	リファレンス選択	フレーム	水平位相	0
垂直位相	0	FSEモード	フレームシンクロ	フリース動作	フレーム
アンシラリー出力	オン	システムフォーマット	Auto	ATC(LTC)出力	オフ
ATC(VITC)出力	オフ	エンベデッド・グループ1 出力	オン	エンベデッド・グループ2 出力	オン
エンベデッド・グループ3 出力	オン	エンベデッド・グループ4 出力	オン	エンベデッド・グループ5 出力	オフ
エンベデッド・グループ6 出力	オフ	エンベデッド・グループ7 出力	オフ	エンベデッド・グループ8 出力	オフ
カレントエンベデッドCh01 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh02 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh03 入力ゲイン(*0.1dB)	0
カレントエンベデッドCh04 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh05 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh06 入力ゲイン(*0.1dB)	0
カレントエンベデッドCh07 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh08 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh09 入力ゲイン(*0.1dB)	0
カレントエンベデッドCh10 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh11 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh12 入力ゲイン(*0.1dB)	0
カレントエンベデッドCh13 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh14 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh15 入力ゲイン(*0.1dB)	0
カレントエンベデッドCh16 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh17 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh18 入力ゲイン(*0.1dB)	0
カレントエンベデッドCh19 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh20 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh21 入力ゲイン(*0.1dB)	0
カレントエンベデッドCh22 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh23 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh24 入力ゲイン(*0.1dB)	0
カレントエンベデッドCh25 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh26 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh27 入力ゲイン(*0.1dB)	0
カレントエンベデッドCh28 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh29 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh30 入力ゲイン(*0.1dB)	0
カレントエンベデッドCh31 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh32 入力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh01 出力ゲイン(*0.1dB)	0
カレントエンベデッドCh02 出力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh03 出力ゲイン(*0.1dB)	0	カレントエンベデッドCh04 出力ゲイン(*0.1dB)	0

☐ カレントエンベデッドCh05 出力ゲイン(*0.1dB)	0	☐ カレントエンベデッドCh06 出力ゲイン(*0.1dB)	0	☐ カレントエンベデッドCh07 出力ゲイン(*0.1dB)	0
☐ カレントエンベデッドCh08 出力ゲイン(*0.1dB)	0	☐ カレントエンベデッドCh09 出力ゲイン(*0.1dB)	0	☐ カレントエンベデッドCh10 出力ゲイン(*0.1dB)	0
☐ カレントエンベデッドCh11 出力ゲイン(*0.1dB)	0	☐ カレントエンベデッドCh12 出力ゲイン(*0.1dB)	0	☐ カレントエンベデッドCh13 出力ゲイン(*0.1dB)	0
☐ カレントエンベデッドCh14 出力ゲイン(*0.1dB)	0	☐ カレントエンベデッドCh15 出力ゲイン(*0.1dB)	0	☐ カレントエンベデッドCh16 出力ゲイン(*0.1dB)	0
☐ カレントエンベデッドCh17 出力ゲイン(*0.1dB)	0	☐ カレントエンベデッドCh18 出力ゲイン(*0.1dB)	0	☐ カレントエンベデッドCh19 出力ゲイン(*0.1dB)	0
☐ カレントエンベデッドCh20 出力ゲイン(*0.1dB)	0	☐ カレントエンベデッドCh21 出力ゲイン(*0.1dB)	0	☐ カレントエンベデッドCh22 出力ゲイン(*0.1dB)	0
☐ カレントエンベデッドCh23 出力ゲイン(*0.1dB)	0	☐ カレントエンベデッドCh24 出力ゲイン(*0.1dB)	0	☐ カレントエンベデッドCh25 出力ゲイン(*0.1dB)	0
☐ カレントエンベデッドCh26 出力ゲイン(*0.1dB)	0	☐ カレントエンベデッドCh27 出力ゲイン(*0.1dB)	0	☐ カレントエンベデッドCh28 出力ゲイン(*0.1dB)	0
☐ カレントエンベデッドCh29 出力ゲイン(*0.1dB)	0	☐ カレントエンベデッドCh30 出力ゲイン(*0.1dB)	0	☐ カレントエンベデッドCh31 出力ゲイン(*0.1dB)	0
☐ カレントエンベデッドCh32 出力ゲイン(*0.1dB)	0	☐ カレントテストトーン1振 幅(dBFS)	-20	☐ カレントテストトーン1周 波数(dBFS)	1kHz
☐ カレントテストトーン2振 幅(dBFS)	-20	☐ カレントテストトーン2周 波数(dBFS)	1kHz	☐ カレントリマップ出力Ch01	EmbIn Ch01
☐ カレントリマップ出力Ch02	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch03	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch04	EmbIn Ch01
☐ カレントリマップ出力Ch05	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch06	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch07	EmbIn Ch01
☐ カレントリマップ出力Ch08	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch09	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch10	EmbIn Ch01
☐ カレントリマップ出力Ch11	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch12	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch13	EmbIn Ch01
☐ カレントリマップ出力Ch14	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch15	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch16	EmbIn Ch01
☐ カレントリマップ出力Ch17	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch18	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch19	EmbIn Ch01
☐ カレントリマップ出力Ch20	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch21	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch22	EmbIn Ch01
☐ カレントリマップ出力Ch23	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch24	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch25	EmbIn Ch01
☐ カレントリマップ出力Ch26	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch27	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch28	EmbIn Ch01
☐ カレントリマップ出力Ch29	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch30	EmbIn Ch01	☐ カレントリマップ出力Ch31	EmbIn Ch01
☐ カレントリマップ出力Ch32	EmbIn Ch01	☐ カレント音声遅延(ms)	32	☐ カレント輝度(*0.1%)	1164
☐ カレント彩度(*0.1%)	1000	☐ カレント色相(*0.1°)	0	☐ アラーム設定(内部バス通 信エラー)	無効
☐ アラーム設定(SDI入力1 アンロックエラー)	無効	☐ アラーム設定(リファレン スアンロックエラー)	無効	☐ アラーム設定(LTCアンロ ックエラー)	無効
☐ トラップ設定(SDI入力1 アンロックエラー)	無効	☐ トラップ設定(リファレン スアンロックエラー)	無効	☐ トラップ設定(LTCアンロ ックエラー)	無効
☐ 初期設定に戻す	いいえ	☐ コンフィグファイルに書き 込み	いいえ		

ステータス

8項目

☐ SDI入力1	1080I59	☐ リファレンス	525I59	☐ Dipsw1	0x0
☐ Dipsw3	0x0	☐ 内部バス通信エラー	エラー無し	☐ SDI入力1アンロックエラ	ロック
☐ リファレンスアンロックエラ	ロック	☐ LTCアンロックエラー	アンロック		

©2018 Cosmic Engineering Inc.

図 6-2 DFS 設定項目一覧

6.4. 「モジュールパラメータ変更」ポップアップ表示設定

「フレーム内部エラー」ポップアップ表示を非表示にする。」と同様にシステム設定－アラート設定で非表示に設定します。

「エラーメッセージ モジュールパラメータ変更」項目で行います。

ポップアップ表示－表示 をクリックして、非表示にします。

この設定は、ブラウザーに保存されます。次回起動時にこの設定を行う必要はありません。

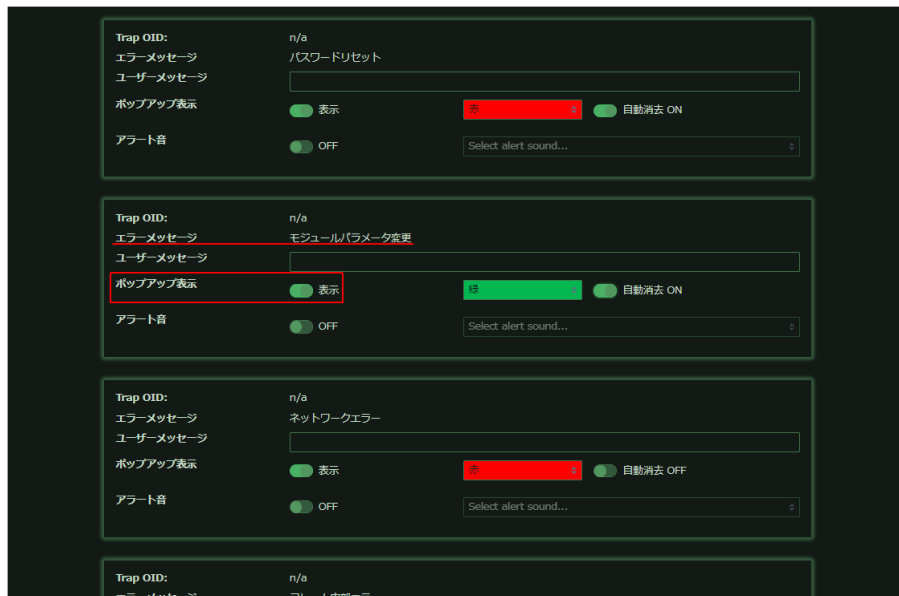


図 6-3 モジュールパラメータの非表示

7. お問い合わせ

株式会社 コスミックエンジニアリング

Address : 〒191-0065 東京都日野市旭が丘 3-2-11

TEL: 042-586-2933 (代表)

042-586-2650 (SI 部)

FAX : 042-584-0314

URL: <https://www.cosmic-eng.co.jp/>

E-Mail: c1000@cosmic-eng.co.jp